

関東氷上郷友会

昭和五十二年四月

第8号

山
女
草



文
龜
紅印



渡辺紙工業株式会社

取締役会長 渡辺金三 取締役社長 岡崎一二郎

本 社	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
東京支店工場	東京都足立区中央本町 5 丁目 22 番 12 号 Tel 887—6711(代)
" 関宿工場	千葉県東葛飾郡関宿町大字台町 2192 番 Tel 0471—96—1489(代)
東京支店営業所	東京都台東区柳橋 1 丁目 20 番 4 号<久月ビル 8 F> Tel 861—2331(代)
名古屋支店工場	名古屋市西区又穂町 3 丁目 13 番地 Tel 521—8111(代)
大阪支店 工場	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
九州支店 工場	福岡市博多区堅粕 3—16—14 Tel 411—4237(代)



渡辺製袋株式会社

取締役会長 渡辺泰造 取締役社長 渡辺金三

本 社	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
東京支店	東京都台東区柳橋 1 丁目 20 番 4 号<久月ビル 8 F> Tel 861—2331(代)
大阪支店	大阪市城東区今福西 3 丁目 2 番 24 号 Tel 939—1281(代)
藤岡工場	栃木県下都賀郡藤岡町内町 4938 番地 Tel 028262—3321(代)
兵庫工場	兵庫県加古郡稲美町蛸草 1438—1 番地 Tel 079495—0257, 0401

敬愛こめて長寿を祝う



年若い日、ふるさとを離れて旅立つ。

異境の地に生活を求めて八十年の歳月。

幸い健康にも恵まれ、斗い抜いた今日。

なおかくしゃくとして余生を楽しむ。

これら先輩各位に誠心こめ、敬愛の情を寄せて長寿を祝福します。

このささやかな祝意をお受け下さい。

この行事はまた、われわれ後輩にも奮起一番の糧であります。

わが郷友会史上、まさに画期的な行事として今後毎秋続けたいと思います。

年ごとに、敬意を表される先輩の多くなることを期待するものであります。

(関連記事 4〜7ページ参照)

山ざる 第8号 目次

表紙画『恋の花』……………常岡 文亀

特集！ 長寿を祝う……………4

祝詞／謝辞／その他

二度も行われた

丹波御巡幸の請願運動……………芦田 確次……………8

オリンピックは改造すべし……………西川 政一……………10

オリンピックの施設に驚嘆……………伴仲 信次……………12

痛恨！ 有田先生……………畑 正義……………14

私も頑張ります……………田 英夫……………17

波高い水産業界

先覚者植木翁、何と見る？……………植木 伍鹿……………18

果断の見識……………植木 伍鹿……………18

心筋梗塞を病みて……………下中 昭男……………20

TVづいたよ！ ふるさとの便り……………木村つたゑ……………24

自然を友として……………和 田 菊江……………25

幼い日の丹波……………和 田 菊江……………25

詩・歳末寓感……………須原 松柏……………26

山ざるに寄す

足立 三治

戦後の日本経済は私どもの予想しないほどの幸運な成長発展を続けて参りました。しかしながら突如噴き出したオイルショック以来、恐るべき不況の嵐が日本全土を蔽い、一般大衆の上に激動を与えました。平和な成長社会しか知らなかった若者はさぞ大きな戸惑いを覚えていることでしょう。

物質尊重だけに依存している現代人の多い社会は、これで良いものかと、私は今こそ、古い良い時代の日本人としての精神尊重の時代に思いを馳せます。

わが郷友会は昨年八十歳以上の会員の方々に長寿を祝福し、心ばかりの記念品を贈呈いたしました。これらの方は遠く郷土を離れて長い人生行路に幾多の思い出を残しつつ活躍された郷土の誇るべき先輩であります。

短歌・高原の朝……………	藤本 久一……………	27
新刊紹介『一大正っ子の手記』他……………	……………	28
柏原町で常岡個展……………	……………	29
西崎祥さんの第二回古典公演……………	……………	29
訪中鍼灸使節団長に……………	……………	29
小川晴通院長選ばる……………	……………	29
五一年度柏陵同窓会開く……………	……………	29
素晴らしい会誌……………	小西 保……………	30
寄附・近況・お便り他……………	……………	30
水上囲碁会の成績／光山女史の厚 志／入会記念として上田氏より寄 附／渡辺紙工業「久月ビル」に移 転／「山ざる」強化の会／新会員 紹介ありがとう／有力郷友の悲報 続く／転居・新任／お便り 五一年度総会開く……………	……………	38
五二年初役員会……………	……………	39
会計報告……………	……………	40
会費領収報告・本会役員……………	……………	41
関東水上郷友会の沿革／会則……………	……………	42
関東水上郷友会会員名簿……………	……………	43

この席にお招きした十二名の方々にもたいへん喜んで頂いて、このささやかな行事が実現したことを役員各位とともに喜んでおります。

さて、今日津々浦々に、新しいふるさとを創る運動が展開されております。私はこれにつけても丹波のふるさとがだんだんと遠くに行くような感じがして残念でなりません。

私も本年七十歳の祝寿を迎えました。お蔭さまで健康に恵まれ、企業を通じて毎日毎日心おきなく感謝しつつ社会奉仕に努めております。そしてより豊かに、且つ実り多い社会を創造し、発展するためにも、私としてもなお一層相互信頼を深める努力をいたしたいと念じております。

ここに一九七七年の新春に際し、本会々員各位のご健康を祈念し、またふるさとで活躍されている皆さまのご多幸を祈りつつ「山ざる第8号」に寄せる言葉といたします。

(本会会長・つるや産業社長)

長寿を祝う

集

特

——色紙と記念品を贈る

郷友会史を飾る催し——

さる十一月十二日の本会総会並びに長寿を祝う会は、幸いに好天に恵まれ、ご出席の各位はもちろん、やむを得ず欠席された方々から丁寧な謝辞を頂いたので、それらの文章を含めてここに特集としてまとめました。

今後とも会員各位のご協賛を得て盛大に第二回、第三回と続けられんことを期待したいと思います。

(編集部)

◇お祝いを受けた長寿者の氏名

○野村 利吉氏 (88歳)

○植木 伍鹿氏 (82歳)

渡辺 泰三氏 (88歳)

荻野定一郎氏 (82歳)

荻野 演一氏 (86歳)

土屋 タイ氏 (82歳)

○赤松 たつ氏 (84歳)

大木 俊治氏 (80歳)

○菊地 顕三氏 (83歳)

小林 章乃氏 (80歳)

実 保二氏 (83歳)

三崎 復造氏 (80歳)

(以上十二氏・敬称略・○印は当日の招待出席者)

なお、52年の長寿者は次の方々であります。

磯畑弘太郎・高野 康慶・堀川 万次・生駒 篤郎・塩見つるゑ・

安藤 秀夫・池田 種生の七氏。

祝 詞

音無太美子さん(春日・黒井芝町)

今回は御長寿の方々のお祝でもあり、私も黒井に九十四歳の母が健在の身にて人事でない気持で出席させて頂くつもりでいましたのに出られなくなりました。皆様おめでとうございます。まだまだ七十、八十はハナッタレ、男・女ざかりは百二十といわれます。どうぞ楽しく、御長命をお祈り申し上げます。

私の母も長寿の秘訣はと問われますと『あらゆる人に、事に、ものに感謝することやなあ……。類は類をよぶちゆうて「喜べば喜びごとが喜んでよろこびつれて喜びに来る」だすわなあ。』と申しています。私がサインペンで大きな字で書いて出す手紙を楽しみにして、キレイな財布や紐を縫って人様に差上げては喜んでいきます。母のことはかりになつておゆるし下さい。御盛会お祈り申し上げます。

山本徳治氏(柏原町新町)

私も喜寿を迎えて足も眼も弱くなり、ご無沙汰勝で悪しからずお許し下さい。本年から長寿を祝う会を併せてお開催の趣、私もあやかりたいと思い、青竹踏み運動を毎日勤行しておりますので、次回には是非出席、末席を汚したいと頑張っております。

村上大憲氏(永上町)



お祝いを受けた方々。左から赤松たつさん・菊池顯三氏・植木佐鹿氏

多難な人生の荒波を乗り越えて八十年、それぞれの職域を通して社会に貢献して来られた郷土の先輩長寿者を、尊敬し祝福することは誠に意義ある催しであると思います。毎週日曜日は法話会、檀信徒の法事等で特に忙しい日です。

・このほか左記の方々からも祝詞を寄せられています。

佐藤菊子、波多洋三、藤田かね子、足立石蔵、足立治、足立一郎、小野智恵子、大野渥子の皆さん

謝 辞

荻野定一郎氏

(前略) さる十二日開催の貴総会並びに長寿を祝う会にご招待を受けました。が、同日は年一回の門下生を招待する会を催しておりましたので、折角のお招きを受けながら拝受いたしました。ご無礼いたしました次第何卒ご寛恕賜り度……。

さて昨日はわざわざ立派な記念の品々をお届けいたとき厚志の程有難く厚く御礼申し上げます。末永くこよいい記念品として保存いたし度く存じます。

役員の方々並びに会員諸氏にも宣敷く風声賜り度くお願い申し上げます。

まずは右取り敢えず御礼ご挨拶まで。

謹言

小林章乃さん(代理)

さきごろ郷友会の定期総会に長寿者としてお招きを頂きましたのに、病弱のため御伺い出来ませんでしたところ、野村様にお祝いの記念品をおことづけ下さいまして、まことに有難とう存しました。

日頃はもう老弱のため何んの寄与をすることも出来ずにありますのに、お心づかいを頂きましてまことに恐縮しております。

赤松たつさん

秋も深くなりました。十三日は敬老の会を御催し遊ばされ、私もお招きに預りまことに楽しき一日を過し、厚く御礼申し上げます。

その節はお手あつきおもてなしに預りました上、お心入りの結構なお祝の品々、銀の三組盃並びに有田喜一先生のおめでたき言葉の色紙を賜り添けなく御礼申し上げます。

帰宅後亡夫の仏前に供え、家宝の殖えましたことを家人とともに喜びあいました。

向寒の砌り足立会長はじめ会員の皆様何とぞご自愛專一に遊ばされ度く、いろいろとお世話さまになりました会員の皆様によりしくお伝

え下さるようとりあえず乱筆乍ら御礼まで……。

植木伍鹿氏（山南町和田）

八十路の峠を越へてからも別段病氣もせず、喰い度いだけ喰い、便通も良く、良く眠り良く働き、血圧も気にせず、何時死すとも文句なしと覚悟し、氣樂に一日一日を深く感謝し味わって暮して居ります。

土屋タイさん（福知山）

御心のこもった御手紙頂き有りがたく、幾度も繰り返し拝見いたし、是非共出席致し度きは心情でございますが、五年ばかり前脳溢血にて倒れ国立病院に長い間入院致し、今では自宅で静かに暮して居りますが、遠方への一人歩きは医師から止められて居りますので残念ながら欠席致しますが、皆様に呉々もよろしくどうぞ右御礼かた／＼御返事まで。御一同様の御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

小林章乃さん（水上町谷村）

長寿者を祝う会の御案内を頂きまして有難う存しました。折角の御好意でございますが、二年半前に倒れまして九死に一生を得、以来病氣療養につとめておりまして、ただ今はようやく家の中で起床が一人で出来る状態でございますので、とうてい出席させて頂くことが出来ません。不愚御了承下さいませ。御懇請を感謝し、皆様方の御健康を御祈り致します。

野村利吉氏（春日町野村）

今回は長寿会員として御招待を頂き恐縮至極に存じます。誠に老生こと身にあまる光榮に存じます。さて老骨こと去る九月より約一カ月入院加療、目下通院自宅静養中でありますので遺憾ながら欠席いたします。つきましては代理として老妻（千里）が列席いたしますので何卒よろしく願ひ上げます。

菊池武利氏（青垣町佐治）

兄頭三が八十歳以上の長寿者のお祝いにあずかります由なので是非出席いたしたいと存じますが、折悪しく当日は当地町田市歯科医師会の旅行がありますので悪しからず……。

野村千里さん

昨年長寿者祝賀の節は私ども主人とともに小林章乃様も頂戴され、私がお届けいたしました。大変お喜びでございましたが、その以前からご病気で入院をつづけられ、その頃は自宅にて娘さんの看護をうけておられましたが、旧冬十二月十九日ご逝去の由、拙宅にも連絡がありました。でも生前に記念品をお届け出来た事はよろしかったと今でも信じております。（52・2・2）

三崎復造氏（柏原町）

折角のお祝いをして頂きますのにとんど外出を致しませんので失礼させて頂きます。代理として出席させて頂きたいのですが老人クラブの方の世話をしますので、当日は玉川八十八ヶ所のおまいりを会員の方をおつれします責任をもって居ります由、残念でございますが

出席出来ませんのであしからず御思召し下さいませ。 三崎加代

○ ○
御祝品を御届けして——植村 章子

昨秋八十歳以上の方々の祝賀会にお出でになれなかった荻野演一様に、御祝品を届ける事を引き受けまして、翌日電話で御都合を伺いましたら、御令息の奥様より「入院中でいらっしゃる」と伺いまして、早速阿佐谷病院へ御見舞も兼ねて御祝品を持参いたしましたら、立居は御不自由なようでしたが、意識は誠に明確で八年前に亡くなられた奥様が私の先輩でよく往き来させて頂きましたので、昔の事など話され、御祝品を大変喜んでお受け取り下さいました。あとでお疲れが出てはと案じながら三十分位お話をいたしました。郷友会は清澄公園が最後だったように記憶して居ります。

ところが、十二月一日朝御令息様から電話で昨三十日午前十時御逝去、今日午後二時より告別式の由、ビックリいたしました。老衰の上にも心臓も悪くなられたとの事でした。御生前中にお届けしてよかったと思うと同時に人生のはかなさをつくづく感じました。ひたすら御冥福を御祈り申し上げます。十年程前に頂いたクジャクサボテンが一メートル以上になり、毎年真紅の大きな花が沢山咲きますし、分けた子も同じく花をつけます。御夫人御逝去後は御令息様御一家と御同居でよくしてくるので何も不自由はないがやはり淋しいとよく話されました事など思い出して居ります。

渡辺金三氏から五万円寄贈さる

渡辺金三氏（副会長）は、さる十一月十三日の長寿者を祝う会の席上、父君の泰造氏が最年長者として祝福されたが、渡辺さんは、感謝の意を表するとともに、

「泰造氏が同年八十八の米寿を迎えたのを機会に身内ばかりの内祝いを行なった」

と報告され、金五万円を内祝として郷友会に寄附を申し出られた。出席の一同から拍手をもってその好意を有難く受ける美しい一シーンがあった。

長寿を祝う会賛助者（敬称略）

足立三治（三五、〇〇〇円） 野村利吉（二〇、〇〇〇円）

西川政一・渡辺隆男・菊地顕三・松山幸逸・西原のぶ

（各一〇、〇〇〇円）

林田孝子（九、〇〇〇円） 植村章子（八、〇〇〇円）

三宅良夫（六、〇〇〇円）

大西俊活・赤松たつ・渡辺金三・村上末吉・永井常資

（各五、〇〇〇円）

和田菊江・伴伸信次・谷垣尚・田辺輝一郎・西崎祥・足立治・小谷

正己（各三、〇〇〇円）

以上の方々に謹んで御協力御礼申し上げます。

（財務部）

話

秘

二度も行なわれた

丹波御巡幸の請願運動

芦田

確次

(春日町黒井在住)

「辺僻な地ですが丹波へ、水上郡へぜひ天皇陛下の御巡幸を仰ぎたく」という請願が、少くとも二回以上おこなわれている。いずれも、お互い生れの地の知名度をたかめ、繁栄に資したいとの願いで、時代がかわつても、また郷里に存る者も他郷に在る者もひとしくねがうところであつた。その第一回は明治十六年、二回目は昭和三十九年に行なわれた。

偶然の機会に、明治十六年の行幸請願文書の控えが手に入ったので、当時の民度を知る上にいささか参考になると思うので、原文のまづぎに転載する。この文書は明治十六年に提出した請願書の控えが、水上郡役所に保存され、大正十五年に郡役所廃止にともない処分されたものが四十余年ぶりに陽の目をみた曰く付きのもので、御存知の水上・多紀郡境の鐘ヶ坂トンネルが開通したのが明治十六年だから、丹波地方の住民は、日本で三番目のトンネルでもあり、三年の歳月と総工事費約三万円のうち六千六百円は水上郡、三千四百円は多紀郡が負担もかかった大工事で、いささか自慢の一つであつたから請願書にも「丹波には見るべきものないとはいへ昨今は交通路を改良し(堅道開通など)」と誇り、天皇の御旗をぜひ丹波の地にひるがえ

してほしいと強調している。

請願書

今般民情御視察トシテ弊境御枉臨ニ付テハ特ニ御留意ヲ奉願度事アリ
抑明治九年東北ノ御巡幸ヲ初メ奉リ頻年地方民生ノ疾苦ヲ問ハセラル形輪(註||とuring・天子の御車)ノ跡殆ンド海内ニ普ネシ然ルニ山陰地方ニ於テハ独リ此殊恩ヲ蒙ラサルヲ歎キ昨十五年五月本県下有馬、多紀、水上三郡人民協議連署シテ一タビ乗興ヲ此地方ニ枉ケラレ飛旆ノ影ヲ拝シ、鳴鑾(註||めいらん・天子の御車につけた鈴)ノ響ヲ聴キ 黎庶(註||れいしよ・諸民)ヲシテ大旱望雨ノ歎心ヲ遂グルヲ得セシメラレン事ヲ請願セリ 此地鄙僻、素ヨリ万乗ノ尊観ニ奉スルニ足ルモノ無シト雖モ近頃道路ヲ修理シ荆棘ヲ開クノ幸ニ從ヒ只管君上ヲ尊戴仰慕スル忠誠ノ至情ニ出テシ事ナレバ 冀クハ閣下宜シク此情況ヲ具セラレ願意ノ暢達スルニ到ルヘキ様御配慮奉祈候 右ハ民情御垂問ヲ幸ヒトシ僭越ヲ願ミス別紙請願書写相添エ我郡民ノ情況ヲ具シ併セテ御賢慮ヲ仰キ候 頓首謹啓
明治十六年七月五日

兵庫県水上郡長 田 錠 吉

高 辻 侍 從 殿

(明治十五年五月に奉呈した請願書の写し)

草莽ノ臣塚口邦之亮等恭ク惟ルニ我

(註)

叔聖文武天皇陛下ノ列聖ノ不續ヲ續キ爰ニ中興ノ昌運ニアタリ
紀綱ヲ振興シ黎元ヲ撫育スニ於テ宿兇跡絶ヘ和氣九寰ノ中ニ充チ

老姦影滅シ威靈八紘ノ外ニ溢ル已ニ聖賢ヲ以テ杖ト為シ又仁義ヲ以テ巢ト為ス臣等誠感誠喜 陛下尚以テ足レリトセズ遠ク形輪ヲ輾リ遙ニ彩錫ヲ浮ベ明治九年ヲ以テ東北ノ諸州二十年畿内各地二十一年北陸諸國二十三年東山東海二十四年北海道ニ風ヲ親俗ヲ察シ兼テ民生ノ疾苦ヲ問ハセラル 形輪ノ過ル所声教聿ニ宣ヘ 彩錫ノ向フ処徳義爰ニ布ク此ノ如キ盛事振古未ダ曾テ有ラサル所焉ゾ之ヲ謳歌セサルヲ得ンヤ 臣等誠感誠喜臣等生レテ聖明ノ世ニ遭ヒ農ニ商ニ工ニ各其職ニ安シ老ヲ扶ケ幼ヲ携ヘ苟モ余力アレバ草萊ヲ開墾シ道路ヲ修繕シ學校ヲ建築シ物産ヲ豊阜ニシ務メテ公同ノ利益ヲ計ラント欲ス曾テ涓埃ノ以テ聖恩ニ答フル無シト雖モ均ク是レ聖代ノ民ナリ特ニ恨ム所ノ者ハ東北畿内北陸東山東海北海道ノ人民ト同一ノ殊恩ヲ蒙ラサルヲ今ヤ臣等棲止スル所ノ國郡山野ノ荒陬 陛下ノ觀察ニ奉スルニ足ルモノ無シト雖モ人民恋闕ノ心情黙スル能ハス且風力ニ聞ク今年復タ象車龍旂ノ西南ニ向フアラントスト臣等誠恐誠惶伏シテ願クハービ乗興ヲ此地方ニ枉ラレ飛旆ノ影ヲ拝シ鳴鑾ノ響ヲ聴ヲ得ハ地方黎元當ニ大旱望雨ノ歛心ヲ遂クルノミナランヤ 閣下臣等ノ微衷ヲ哀憐シ前意執奏アラソコト切望ノ至リニ堪エス 臣邦之亮等味死謹テ表ヲ奉シ以聞ス

明治十五年五月 日

兵庫県丹波国水上郡町村人民総代

塚口邦之亮 土田雅二 衣川策之介

同郡町村戸長総代

衣川栄太郎 江間查 高橋甫

同県同国多紀郡町村人民総代

宮内卿徳大寺実則殿

山田嘉右エ門 井上寿太郎 小林常三郎
波部本次郎 園田多祐
同郡町村戸長総代
飯島確藏 滝山理之進 波多野鉞之助
同県摂津国有馬郡町村人民総代
住谷矢七 足立新平
同郡町村戸長総代
松田市兵衛 片山源治郎

この請願のあとの明治、大正、昭和前半にもおそらく丹波へ御巡幸をねがううごきが起ったことと想像されるが、記録が残っていない。

第二回目は、終戦後からはじまった天皇の地方巡幸が一通り終わった昭和も三十年代の後半から四十年代へかけてだった。こんどは地方自治体等が中心になるのではなくて、当時、渡辺紙工業K・Kの取締役会長だった渡辺泰造氏（水上町朝阪）が、水上愛郷会を推進されていたころだった。生れの地を同じうする者は、在郷、出郷にかかわらず連絡協力して、墳墓の地の繁栄をねがいながら共栄の道を進めようという趣旨で、関西、関東水上郷友会や水上郡内町の政治、経済、文化等諸団体を糾合して水上愛郷会を結成し、いわゆる愛郷運動を展開していた。

その事業としては、水上郡開発に関する論文を公募して、郡機関の進路の参考とし、郷友石橋治郎八（養蚕）、佐々井信太郎（園芸と畜産）を講師にして産業の振展に資し、愛郷会館や愛郷霊園の建設をめ

ざしていた。

天皇陛下の丹波御巡幸請願もその一連の事業計画の一つであった。これはかなり長期におよんで、内閣官房長官を通じ、或いは石橋治郎八とともに秩父宮家を訪ね、両氏がそろって宮内庁を訪問するなど、精力的な請願がおこなわれ、かなり明るい見通しが得られたということだったが、その言おうとするところは、陛下が丹波、但馬へは巡幸なさったが兵庫県丹波は未訪の地となつてゐるので、是非御来興下さ

るよう予定に組み入れられることを請願しますの範圍を出す、結果はあれやこれやで沙汰止みになつてしまつたが、奇しくも明治初年と昭和終戦時の地方巡幸がおこなわれた時、同じ発想で請願が行なわれたということは、丹波が八十年の間になほどめざましい発展、変化はなかつたということになるのではなからうか。二つの記録から天皇巡幸の運動のあとを偲んで記して見た。

(元丹波新聞社編集長)

《一水慢筆》

オリンピックは改造すべし

西川 政一

(市島・竹田)

懐かしのニューヨークに昔を偲んで

「佐渡へ佐渡へと草木もなびく」——スポーツ界はあげてオリンピックに向つて走つた。腐れ縁というか、私はバレーボール界からいまだに足を洗い得ないのである。「男子も女子も金メダル」とのみんなの希望もあり、また後援会会長としての責任上、私は少々長期間ではあったが、モントリオールに向つて出発した。まず、この後援会のこと、みなさまに深甚の謝意を表し、心身両面にわたつての熱烈なご声援に心からお礼を申し上げます。

さて私はその前に、7年ぶりのニューヨークを訪れ、旧知の人々に会い(中には戦争前、ともに働いた人もあつて)、ひそかに限りなきよろこびと感謝に満たされた。

羽田からアンカレジを経てニューヨークに直行し、無事ケネディ空港に着いた。竹本君、貞安君夫妻、植田夫人などの出迎えを受け、まずなつかしさに胸をふくらませた。カーライルホテルに案内を受け、しばらく休憩した後、(時差の関係から、羽田出発と同じ日の昼前にニューヨーク着)、吉兆で久闊(きぐわうかつ)を叙した人が数人、これからニューヨークでの4日間にわたる公私こもものなつかしい生活がはじまる。

先般、米国独立二〇〇年祭が行なわれたとのことで、当時の国をあげての数多き催し、とくにニューヨーク市のかつて前例なき記念行事の数々は、すでに詳しい記事が寄せられているので私は敢えてここにくり返さないが、戦前戦後のニューヨーク及びアメリカの事情を聊か知っている私は感慨さらに深さを覚えた。とくにブロードウェイのビルで呱呱の声をあげた開業早々のわが社は、戦後他社に先んじて第一



番にこの地に居を構えた。ウルウォースビルのファブリカント事務所の一室を借りてスタートした当時と、その後ウォールストリート一〇〇及びバインストリート八〇の高楼と、今日のロックフェラーセンターの偉大さとを比較して感慨無量というよりも、私は発展の速度ならびにその内容の充実などに一種の驚異を感じ、その行末の重大さにわれながらひそかに心を打たれたのであった。

二日目にはミッドタウンのオフィスを訪れ、多忙な中、各部をつまびらかに案内してもらったが、社員諸君の活躍ぶりを目のあたり見て、会社の前途にあれこれと思いを馳せた。エンバイヤーステートビルのオフィスとも合体して、ここに一大コンツェルンを築き上げた今日、その何倍かの取引きが現実に行なわれること期して待つべきを思い、一方ならず雄図をかきたてられた。そして私はただ祈るという言葉がこの際ふさわしいように思えてならなかった。

米国（現地）人の働き盛りの若人を併せて約一八〇名に及ぶ当地の現状は、全世界一〇〇ヶ所にあまるNII事務所の総和に匹敵するものであり、常にそのリーダーとして進んでその旗手を以て任ずることに快哉を叫ばざるをえなかった。

翌日、われわれは北郊のウエチエスターにペラムマナーを訪れ、住み馴れた思い出のわ

が家や昔のままの小学校校舎、さらに今や立派な庭木の一部に成長している桜樹（西川寄贈）を見て、いずれも懐旧の情切なるを覚えしめた。ペラム一巡の後、ホワイトストーンブリッジを渡り、ロングアイランドのベスページステートパークに行く（そのゴルフコースは当時、ブラックはじめ四つのコースであったが、今は黄色のコースを加えて五つになっている）。クラブハウスで少憩の後、コニーアイランドに住年の姿を偲び、次にダウンタウンに回る。そこには一〇〇階建ての新ビルがそびえ立ち、ワールドトレードセンターとして君臨している今日であるが、時世の波はその存在をすら脅かし、空室多きをかこっているという。

オリンピックの未来を憂う

七月十六日、ニューヨークの人々に別れをつげ、植田君の配慮で目的地モントリオールまで今鷹君の同道をえた。後にモントリオールへニューヨークの高木君、木谷君、山下君などが応援に来てくれて恐縮した。とくに高木君はバンクーバーまで同道してくれて、いろいろと世話を下さった。空路わずかに五〇分、十二町君夫妻の出迎えを受け、いよいよ民宿の味を満喫することとなる。開会式の前日というので街はオリンピックムード横溢である。翌十七日、メインスタジアムにおもむいた。私は今回、次のような感想を述べざるを得ない。

- (イ) 先のミュンヘンでは選手村のゲリラ騒動があったのであまりにも神経質になり、必要以上の警戒、否、常識外れの厳重さ。
- (ロ) 政治とスポーツをあまりにも混同しすぎた。
- (ハ) 市長は以前に万博を断行し、相当野心的な男だと聞かされてい

たが、今度このオリンピックをや、莫大な借金をしており、その故にストライキが続発し、前途容易ならぬようである。各種施設の今後の運営も非常に困難視されているという。

(二) テレビで詳しくごらんの通り、バレーボールの女子代表はダンチの成績で金メダルを取ったが、男子チームはキューバにすら惨敗した。目標はソ連とポーランドであつて、健闘したもの、結果はまことに粗末。責任者は国民に合わす顔ありやなしや。勝敗は時の運といえども試合は勝たねばならぬ。今日の日本チームはその実力を発揮しているのかどうか、精神的なあるものを失っていることは否めない。敗軍の将、兵を語らず。沈黙は金なり。

(三) オリンピックの感想一にして止まらぬが、このままで行けばオリンピックは破局を招くのみ。メダルを取れば年金とは何事ぞ。オリンピックはすべからず、アマチュア精神に徹すべしと考えるが、いかが？

(四) 一例であるが今後オリンピックはすべてその発祥の地ギリシャで決行すること。選手権大会とか世界競技大会とか各種目によって世界各地で自由に行えるではないか。

(五) 自由国家と共産圏国家とはIOCのもとによく語り合い、真に平和とスポーツがよく人びとの心をなごませ、国際的にも十分親善の実をあげ得るように努力を重ねること。

附記

空港で郷友会の伴信次さんと偶然会ったが時間がなくてやアやア、で別れたのも、旅の印象を一層強く覚えたものである。

(日商岩井相談役・日本バレーボール協会長)

(写真はカナダ・ケベック市ジャンヌダーク像前の西川さん夫妻)

カナダ雑感

オリンピックの施設に驚嘆

伴 伸 信 次

(春日・多利)

モントリオール

古い話になるが、東京オリンピックや大阪の万国博覧会の施設を観て、貧乏国日本が随分立派なものを植えたものだ、少し背伸びしすぎではないか……と思つて見たものだが、考へてみると金があるから出来ることであり、日本の国力を世界の人に観て貰う為にベストを尽して企画し建設したものだと思つた。

昨年モントリオールオリンピックを観る事に機会を得て、職業柄その施設を観る事に大きな興味をもつて出掛けた。

僅か三泊の滞在で充分競技を観る事は出来なかったが、閉会式に参加できたのは大へん感激であつた。

建築は一国の文化の象徴とも言えるが、先ずカナダの国柄と豊かさ

に驚いた。

国土の広さもさることながら、その広い土地を大切に使用していること、いふなれば大地の恵みを充分に生かして享受しながら腰を据えて生活しているといった印象を強く受けた。

オリンピックの施設やこれに関連する道路、交通機関等の配慮も先

人の残した遺産を尊重しながら、現代の最高の技術を駆使して調和ある街造りの中に最高のモニュメントを遺す気配を感じて敬服した次第であった。

殊にそのシンボルとも言えるメインスタジアムの企画、設計、施工の技術は圧巻である。

日本の建築の技術（企画、設計、施工を含めて）は世界的にもトップクラスにあることは自他共に認める処であるが、あのメインスタジアムは日本の建築界も高く評価して賞讃をおくっている処である。

いささか専門的になると限られた紙面で意を尽くせぬもどかしさであるが、現代の建築技術の頂点として誇り得る作品であった。



オリピック開会式

カナディアン・ロッキー

国が大きいと国立公園の規模もまた大きい。しかし日本と違うところは、その広い範囲の自然を大切に扱っていることだ。

バスがカルガリーの街を出て二、三〇分走ると人家もなくなり、遙かに雪をいたたくロッキーの山並みを見ながら一時間走っても家一軒ない。

途中バスを降りて景色を眺める処が何回かあるがそこにも売店一つない。

窓を横切る原生林もまさに万古不滅のたたずまい。坦々と続くハイウェイも自然に逆うことなく、ましてや赤膚を露出させるような処もなく舗装されて快適に轍を響かせて疾走する。

進むにつれて白雪をいたたく峨々たる山々が遠く又近くに迫ってくる。と、忽然として古城のような大きな建物か目に飛び込んできた。

そこが今宵の宿シャトーレイクルレイズだった。

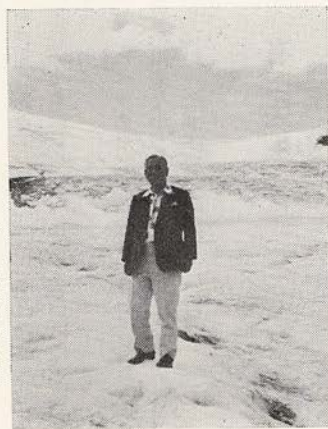
このホテルはレイズ湖の畔り絶景の地にあり、その大ききたるや帝国ホテルを幾つか合せたとも思える種の堂々たるシャトータイプである。しかも建物はこのホテルだけでどこかの国の観光地とは雲泥の差である。

宿泊客も各国の人々でさながら世界的な社交場は斯くもやあらんかと思わせる雰囲気、なかには長期滞在の客も相当あるらしく派手な夜会服を着飾った優雅なグループもあり、ところ替れば何んとやら次第であった。

日本人客の多いのもまた驚ろきであった。

コロンビア大氷原

万年雪を戴き氷河を抱いた悠久の大自然を左右に眺め、景勝の地に車を止めながら約三



コロンビア氷原にたつ筆者

時間でコロンビア大氷原に着く。

この氷原幅一軒(間口で)長さ二十七軒で面積二三〇〇平方軒とか、氷の深さ(厚さ)一八〇メートルから三〇〇メートルと云う気の遠くなるような雄大さである。

雪上車に乗ってこの氷原に入ったが、雪解け水が滔々と流れてクレバスに音立てて落ち込んでいる。このクレバスに落ちたらさいご三千年から五千年位いたたぬと死体が現れないと説明された。

この雄大な氷原が一日に何ミリかずつ移動(流れる)している訳である。氷原を流れる水のうまかったこと、また手を五秒も漬けているとシビれる程の冷たさが強く印象に残っている。

ここの大氷原が観光客の為に一番開発された場所らしいが、例によって建物としての施設は、ドライブインとホテルを兼ねた休憩所が一軒あるだけで、自然保護に徹した国の姿勢を目のあたりに示していた。

おわりに

今回の旅行でも一つの期待はカナダの森林資源の視察であった。

日本の住宅建築にもツウバイフォー(2×4)が取り入れられて、住宅の新型とでも言うのか来米工法の住宅やプレハブ工法住宅に対して脚光を浴びてきたのがツウバイフォー工法であり、その材木の殆どはカナダよりの輸入である。

カナダ国のケベック州は木材の産地として著名であり、大阪の万国博覧会にもケベック館として膨大な材木を使用し、屋根に鏡を張ったパビリオンを出品して宣伝していたの思い、その森林資源の程も想

像されて大へん興味をもっていたのであった。

モントリオールもケベック州にあるが、周辺一望の中には森林らしい存在は見当らず、空から眺めても森林らしいたたずまいには遂に目にかからず仕舞だった。

いかにカナダが広い国か、ケベック州だけでも日本の何倍かあるそう、この森林資源の視察が出来なかったこともうなずけた次第であった。が一つの期待が果せなかった事は残念に思っている。

痛恨！ 有田先生

畑 正義

(春日町在住)

思っても染めぬ番狂わせ。昨年暮の衆院選での、関東氷上郷友会名誉会長有田喜一先生の悲運。何はともあれ、在郷の私らの責任だ。何とも申し訳のないことをしてしまった。先生には元より郷友会の皆さん方に伏してお詫びを申し上げる。

郷里では多勢が泣いた。慟哭もした。選挙の直後、NHKテレビで第一議員会館での(首相になる前の)福田赳夫氏との会見の放送は見事に忍びなかった。涙の止めようもなかった。

郷友会会員のみなさま方も、さぞかし同様の思いであったであらうと思う。

敗因は何か 選挙に衆観は禁物であるとは、昔からの常習語だ。経



有田喜一氏

驗豊かで貫禄十分で実力者である。大丈夫、との安心し切った気分が全陣営に漲っており、その上に有田、佐々木楽勝と、マスコミの報道があまりにもよすぎたことも重なって――。

どの選挙でも、選挙事務所を覗いて見れば当落の予断はできるもの。打てば響くような緊張した雰囲気、出入する人々に活気のある事務所なら必ず勝つ。

だのに今回の事務所には、何々長などとの肩書を持つ偉い人々が、樂觀ムードに包まれて、あたかも〇〇のような日もあったとか――。

それに他陣営からの悪宣伝。年寄りだ、若い人でなければ――。これが案外の痛手であった。年寄りと言っても青木一男氏の如きは、今年の参院選で八十八歳で引退するではないか。有田先生はまだまだ働いてもらえる筈だ。

どれを取り上げて見ても、それこそ地団太踏みたくらいの無念至極のことばかりだった。

造船疑獄での白 太平洋戦争中に激減した船舶を増強するため、昭和二十八年に成立した「船舶建造融資利子補給補償法」に絡む贈収賄事件で多数の自由党代議士が逮捕された。検査当局は党幹事長佐藤榮作氏を収賄容疑で逮捕請求をしたところ、犬養健法相が指揮権を発動して逮捕を延期させた。これが後世にまでも悪評の高い指揮権発動だ。

この利子補給補償法の発想とその推進者は、ほかならぬ有田喜一代議士であった。そのため、当然収賄しているものとの容疑がかけられた。社会もそう見ていた。だがしかし、検査当局が調べてみれば、何等その事実はない。先生は造船業者が持つて来た金銭を即座に突き返して拒絶されている。

このように有田先生は清廉潔白な人格者である。

口汚職者は大勝 ロッキード収賄であれほど評判の悪かった田中角栄氏（私の如きが呼び捨てにしては生意気だ。敢て、敬称を付ける）が、十七万票もの大得票であった。白が落ち、黒が大勝。それこそ不運としか言いようがないこと。

有田先生が地元のために尽された功績は、田中氏に劣るものではない。

あの道、このトンネル、あそここの河、橋、学校、電報電話局、公務員の寒冷地給与の引き上げから何千人にも及ぶ就職の斡旋など――、それこそ枚挙に際限がない。先生のお世話になっていないものは何一つない。だのに一部選挙民の政治家を見る目、その人情は地に落ちてしまったと言っても酷評ではないだろう。お世話になったことをよく知りながら、前職何々との肩書きを書いて他陣営の運動に利用した不

人情者に腹が立つ。そりゃあ選挙は誰に投票しようと自由だが、地元
の繁栄があつてこそ国家の繁栄となるわけ。地元のために献身奉仕し
て下さる政治家を選ぶべきことは非難されるべきことではないと思う。
結局人の心は怖い。の一言に尽きる。

これらのことをあれこれと考え合わせ、有田先生御夫妻のご悲嘆の
程を御推察申し上げるとき、お気の毒でたまらない。

伊勢湾台風時の偉業 第二次世界大戦後最大の被害をもたらし、
昭和三十四年の台風十五号、別名伊勢湾台風という。九月二十六日潮
岬西方に上陸し、奈良・三重県境を通過で本土を横断し日本海に抜け
ている。

その被害は、災害史上まれにみる大規模なもので、私の住む春日町
でも、県道五、町道二十五の橋梁が流失した。他の災害は推考して知
るべきものだった。

水上郡六町長（私も末席で）は直ちに上京、各関係省庁に復旧を陳
情した。各省庁ともに、

「われわれは災害地の味方だ。大蔵省さえ承知すれば復旧しよう。

大蔵省へ行け——」と。

その後、被災地の兵庫・京都・滋賀・奈良・三重・岐阜・愛知の七
府県の町村長らが大学して陳情に上京した。清瀬一郎衆議院議長を団
長とし、各省庁や自民党本部への陳情班を編成した。

ところが、肝腎の大蔵省は誰が行っても面会謝絶で頑として、会見
もしない。だが、有田先生なら会おうということで、当時先生は落選

の苦節時代ではあったが、大蔵省班の班長になっていただき、他の関
係府県選出代議士はそれぞれ各省庁の班長となつて、バスを何台も連
ねて陳情に向ひて行つた。

大蔵省主計官も有田先生には快く陳情を受け、その結果災害復旧に
関する特別立法が制定された。被害激甚地に指定された町村は、復旧
費の九〇%までの国庫補助金を受け、原型復旧を原則とするのに改良
復旧にまで持つて行き、災害前よりも立派なものに復興できたのだ
つた。

この一事を見ても、有田先生の手腕、力量は言うに及ばず、徳望の
然らしむるところと、ただただ感動するとともに深謝した次第であつ
た。

それらのことから考えて見る時、有田先生を失つて、一番に困るの
は地元である。上京しても、先ず有田事務所立寄り、先生から陳情
先に電話していただくか、または、引率して行つてもらつていたのだ
が、もう、こんなことはできなくなつてしまつた。

私ことで恐縮だが、私も上京の都度、有田事務所へ行き、大した用
件もないにただ先生のお顔を見るのが愉しみであつた。しかし、も
うこれもできない。上京する愉しみがなくなつた。悲しい思いがす
る。でも、選挙直後、心機一転。

永田町TBRビル七一四号電話〇三—五九三—〇三二—
に事務所を設置された由、ここでもまたお目にかかれると待ち望んでい
る。

一九二二となって再起に奮起を 水上郷友会のみなさま方、有田先生に

こんな悲境のままで朽ち終ってもらうのは国家の損失と思われるであらう。で、捲土重来奮起を乞う。あなた方の周辺には先生に就職のお世話を願った人々も多いと思う。これらの方々をも、お誘いいたしたい、

在郷者よ頑張れッ、と激勵願いたい。氷上郡はもとより全選挙区には熱狂的な有田教の信者が多い。

これらが、火の玉となって起ち上るとき、今回の千四百票の僅差ぐらいは何のその、易易、楽楽、必勝確実である、

(春日町多利在任・元同町長 五十二年一月二十七日記)

有田氏、名誉の表彰

本会名誉会長有田喜一氏は衆議院議員在職中の五十一年九月二十七日衆院本会議々場において、

岸 信 介

佐々木 秀 世

荒 船 清 十 郎

秋 田 大 助

江 田 三 郎

の五氏とともに代議士在職二十五年に互って

「常に憲政のため民意の伸長に努めた」功績によって名誉の表彰を受けられた。

私も頑張ります

田 英 夫

(柏 原)

郷友会のみなさん、ご無沙汰いたしております。五一年度の総会には、久し振りに出席してみなさんにお目にかかれることをたのしみにしていました、折からの総選挙の応援にかり出されてまた／＼ご無沙汰を重ねてしまいました。郷里のみなさんにも、たまにお邪魔しましても、選挙の応援に駆けぬける程度でつい／＼ご無沙汰いたしております申しわけなく思っております。みなさんご存じのように私どもの郷里は日本一の過疎地帯であります。それ故に様々な問題をはらんでいます。

これからの日本の政治をするものにとつて真剣にとり組まねばならない問題ばかりなので



参議院議員 田英夫氏

す。そのためにも、私も頑張らねばと思っています。みなさんのご支援を願います。

(参議院議員・社会党
国際局長)

波高い水産業界

先覚者・植木翁、何と見る？



植木憲吉翁(右)と著作(左)

前文

日本の水産業界は近年著るしく波が高い。ことに本年に入って十二カイリ領海宣言二百カイリ専管水域説などで、水産業界は大変な変革を迎えようとしている。

戦前、戦後にかけて北洋漁業、南水洋の捕鯨事業において一躍世界の海域に覇を競った今日の『日本水産』育ての親水上郡出身の植木憲吉翁が、この現状を知られたら如何なる感慨を漏らされるであろうか。翁は本年十三回忌を迎えられるというが、翁と

もに日本水産業界に大きな足跡を残された実弟伍鹿氏に、翁の思い出についてメモ様に記して貰ったので、ここに掲載して翁の生前を偲ぶこととする(松山記)

なお、憲吉翁の詳しい事蹟を知りたい方は

『植木憲吉自伝・日本水産』その他がある。法名は「天徳院心洋 憲道大居士」昭和三十八年四月二十四日逝去

果断の見識！

植木 伍鹿

(山南・和田)

ご依頼の兄、憲吉については丹波新聞社発行芦田確次編集「水上新人物風土記」―和田の巻―に記載されてあるから、この本を読んで頂ければ結構である。私は弟として見た兄の秘められたエピソードといったものを書いて責を埋めたいと思う。

そこで弟の見た兄憲吉についていえば、

一、性豪直、数理的頭脳明折である。従って事を処するに速断、速決、何事もその場で処理して問題を後に残さない。

一、内心類る情に厚いに拘わらず、理論正然、少しでも理に合わぬ事はとことんまで追求、上でも下でも決して妥協がない。

一、このため公私の別なく、感情は別にして一応事に望めば常に「大の虫を生し小の虫は殺す」という言葉をよく使い、父の最後に残し

た「艱難汝を玉にす」との言葉を好んだ。

そのため唯ひとりの弟に対しても厳しく、一生を通じて直接物質的恩恵は受けていない。かりに受けたとしても精神的な面が多かったようだ。但し姉妹などには誠に優しくかった。

日水ブラザーへ

私の日本水産輸入問題が起ったとき、兄も私も反対したのだが、田村啓三社長の懇切な説得があったため日本郵船から入社したわけであるが、入社以来仕事に急に増大して蟹工船を主体とする北洋漁業の発展、南水洋捕鯨工船出漁など仕事上、兄の船長、弟の機関長という兄弟コンビの呼吸が合って、会社運営上非常に都合であったが、他方重役や社内間でも日水ブラザー商会の悪口もささやかれたりして苦労したものであった。

対米戦争には反対

日水では以前から九州戸畑に船員養成所を設けて、海軍とは特別の関係があった。従って顧問として二・三人の中将クラスの軍人がいたが、兄は戦争に対しては最初から徹底的に反対していた——初めから敗けると決っていた対米戦争だからだが、一商社の反対など力の及ぶところではなく、日水の船舶大小百隻余が第一番に陸海軍に徴用されてしまった。

対米開戦に当っては、開戦二、三年から極秘裡に研究されて、北方漁業、南方真珠貝船団などに特別海軍通信兵を漁夫に変装させて乗込ませて、同方面のあらゆる通報任務を命ぜられていた。米国との開

戦、真珠湾攻撃と共にこれらの地域に強制出漁していた漁船、特に南方の真珠貝漁船は全船沈没させられたが、前々から周到な準備と訓練を受けていた船員は奇蹟にも等しく全員救助された。

やむなく丹波へ疎開

大平洋戦もいよいよ終局に近づき敗戦の色濃くなった。海軍部内に対陸軍、対上層部門との意見の対立が激しく、われわれ民間の意見までが参謀部で聞かれるようになり、兄も特別会議に呼ばれた。意見を述べよといわれた兄は平然として、

「軍人は国家、国民の番犬であらねばならぬ」と叫んだため大変な騒ぎとなり、「軍を侮辱するも甚だしい」と強硬な言を吐く者も出て、一時はどうなるか案じられたが、兄に好意、信望している将校などが仲に入って一応その場を収めたが、そのことなどから私など兄の身辺を危ぶみ丹波へ疎開するよう進言した。そして実現した。

陸戦隊救出に成功

話は前後するが真珠湾攻撃の後、北方アリューシャン群島守備の海軍陸戦隊は引揚げ不可能となった。もちろん日本海軍の空軍も軍艦も潜水艦も近寄れなくなつて全員全滅の危険に類したとき、海軍軍令部の懇望によって救出を図った。芝の水交社の一室にたてこもつて、兄らと一緒に、北洋漁業関係者と相談して多数の小漁船を漁夫の手で操作して悪天候と濃霧の裡に北千島へ無事引揚げたときの感謝は忘れない。

政治家で大成期したが

兄憲吉は労働問題にもなかなか理解があったようである。若いとき下松造船所や大阪鉄工所を買収したが、それらの経験で苦勞したものである。日水の船腹も増大するにつれて、船員対策は会社の大事な仕事になって来ていた。当時海員組合副組合長の米窪満了氏（商船学校先輩、後の初代労働大臣）を紹介したところ、たちまち意気投合、その場で私（当時日水船舶部長）と鈴木九平君（後の日水社長、当時捕鯨部長）の私的顧問に就任して貰い、社業発展に寄与された。しかし米窪氏は当時は革新派社会党の重鎮であつたため、憲兵隊より狙われていた事もあって、好意ある海軍将校の助言を容れて、終戦直後の第一回南水洋出漁図南丸に朝日新聞記者として乗り込ませて姿をかくさせたりしたエピソードもあつた。

そんな事から米窪氏が片山内閣の労働大臣に就任された当時、私たち兄弟が、労働委員や海上航行審議会委員に任命されて船員法や安全法などの改正の仕事を手伝うようになつた。

ところで憲吉兄は、父が政治家として最後を病氣と貧乏の苦しみを見せつけられて成長したから、政治には足を踏み入れなかったが、兄の親友の高碓達之助さんが政界に入ったとき、一緒に政壇に立つて思う存分優れた頭脳と果斷の見識を発揮して欲しかったと今日でも惜しいと思つている。ことに今日の水産業界の現状は日本の食生活にも重大問題を投げようとしているとき、兄の様な人物がいってくれたらどれほど心強いかとつくづく偲はれる昨今である。

心筋梗塞を病みて

下中 昭男

（山南・谷川）

深夜救急車を呼ぶ――

昭和五十年七月二十八日午後十時、床に就き寝入った許りの処を猛烈な痛さが私の胸を突いた。何を言つたのか分らないが私の声に驚いた妻は、『どうしたの！ どうしたの！』と叫ぶ。漸くのことに手真似を入れて、

「今日日赤病院で貰つて来たニトログリセリンを」の意が通じ二錠を舌下した。白色螢光灯がどんどん黄色に変つて行く。便意を催しトイレへ行く。しかし痛さはとまらない。

そのまま廊下に蹲り失神。

妻は広尾の日赤病院に電話をしたが、連れて来てても処置出来ない、病室もないとの事。消防署に電話をし救急車を依頼、約五分間で救急車は来たが、八十八キロの巨体を三階から一階に降す方法がない。裸足で飛び出した妻は

「誰か助けて下さい」

と叫ぶ。一言氏がこれまた裸足で飛び出し私の両脇を抱えて三階から一階へ降して救急車に乗せた。

『いへへ行こう?』

と救急車を運転して来た消防署員が相談している。やがて車は動き出した。胸は痛む。この車の中では死を意識した。然し

“これで死んではたまらない。余りにも残酷ではないか。何くそ! 死んでたまるか!”

と何回も何回も自分で自分に言い聞かせて頑張った。

……(車は港区の救急病院・F病院へ着いた。)

この日から五日間、F病院で手当を受けたが、半分位は意識あり、半分位は意識なしである。熱にやられたらしい。その間看病をしてくれた妻等の話を綜合すると、

○救急病院での手当では、点滴と同時に酸素テントに入り安静にしている事であった。……(一般の手当としてはこの程度であるらしい。)

○呼吸が毎日毎日苦しくなったらしく、ベッドが軋む程胸が動いていた。

○どんな顔色が悪くなりこのままでは“死”ではないかと直観し、

高見先生に連絡御願した。

高見先生は中学校の同級であり、昭和十八年に別れて以来会っていなかった。昭和五十年の正月に妻が身体の変調を訴え、正月でも診察を頼める先——高見先生を訪問、妻とも面識が出来たのである。高見先生は心臓病は専門外であるが、医師の直感として、すでに私の顔には死相が漂っている事を看破され、このままではあと二日もたないと判断。

第一番に心臓病に関し、設備・医師共に世界的にも権威のあるT病

院を、

第二番にもしT病院に入れない場合はK病院へ、入院させるべく種々御高配を戴いた。同時に入院中のF病院より他へ転ずるには病院長の承諾が必要で、これにもF病院長のブライドを傷つけず快く承諾をとれるよう万全の配慮をしていただいた。

狭心症センターへ

八月二日午後五時半頃……夕方涼しくなった頃に……T病院狭心症センターの救急車が、医師二名、看護婦二名を同乗して迎えに来た。この時点から私はT病院の管理下に置かれた。医師は慎重に診断。無電でセンターに心電図を送り連絡を取りながら……動かす事を決意。私の耳もとで優しく

『今からT病院の狭心症センターへまいります。そこはあなたと同じ病気の人が入っています。』と話をしてくれた。

狭心症センターの救急車はベッド式であり、酸素ボンベを積込んでおり、酸素吸入をしながら、また本部へ心電図を無電で送り続け、到着時に直ちに処置出来る態勢をとっていた。看護婦の一人は私の手首を握りつけ脈搏を計っていた。出発した車は“救急車である。道路をあけよ。”とマイクを握った医師が叫びつけ、相当なスピードでT病院へと向った。東京は坂が多く私にはこの坂の上下がこたえた。到着するとすぐ二階(手術室)へ運ばれた。途中看護婦がメモ紙とボールペンを持って来て、この病院の第一印象を書けとの事。書き終ると医師が『この病院では先ず……の検査をします。その為

手術室へ行きます。』と耳もとで優しく話しかけた。安心したせいか、内容を憶えていない。……あとで考えるとカテーテル検査をするとの話であつたらしい。手術室に入った時、年輩の女性を挟んで五、六人の人が手術衣を着て座っているのが目に入った。が同時に目の中に白・青と白・ピンクの鮮かな美しい色彩が入つて来た。と同時に胸が猛烈に痛い。『痛い』と叫ばざるを得なかった。年輩の女性が『モルヒネを』と叫び誰かが動いた。と同時に意識はなくなった。

あなたの心臓は強い

“トーン”とたたかれ目を覚すと病室にいた。側には看護婦がいた。『あなたの心臓は強くてあなた自身の力で動いているのです。鼻には酸素吸入の管を入れて気持ち悪いかも知りませんがとらないで下さい。口にも管が入っています。くしゃみは絶対にしないように。痰がつまったら手をあげて下さい。吸出します。奥さんは別の室でお休みになっています。お疲れなので私がお休みになるようすすめました。常に誰かが看ていますすけれども、用事があれば何でも何時でもこの呼鈴を押して下さい。』との話である。

意識がなかった時間、それは数時間の睡眠程度と感じていたが、妻の話では五日間との事。(妻は五日間待合所の長椅子に座って待ちつづけた。)八月二日夕方六時頃入院、手術室に入った私は心不全から肺水腫の症状を起こした。カテーテル検査を予定して待機していた医師五人は、予定を変更して直ちに夫々手分けをして、心不全、肺水腫、からの救出の処置にとりかかった。妻が待合所に待っていると

時々出て来る医師は妻の前を避けて通る。それでもつかまえて容態を聞くと、

『全力を尽してやっています。』

『死なれては困るのです。絶対助けて下さい。』

哀願する妻との間にそんなやりとりが数回あつて、午前三時、担当医師を残し他の医師は帰った。実に九時間の処置時間である。妻には『何とも申せません。(助かるかどうか)』の答え。妻は、待合所に聞えるフーフーと言ふ音が私の呼吸音を拡大したものである事を知り、『大丈夫、生きています。』と、この音を頼りに五日間待ち続けたとの事である。

常識的には死んでいた

この間、どんな処置が如何に行われたかは誰も説明してくれない。担当医師は三日間徹夜で私の処置に専念してくれた。妻が会った時にはいっぱい目やにをくっつけて一生懸命であり、

「ここまでやって貰ったのなら万一命を落してもやむを得ない」と、妻も決心をしていたほどである。然しその後入院中に看護婦から断片的に聞いた処では

……肺水腫になると一秒を争う。あなたはついていたのよ。専門の先生が五人もいたなんて。c・c・uがあいていたし、若し、一般個室入院なら間に合わなかったでしょう。

……入院して来た時は、ずっと私が世話したのよ。覚えていない？ あなたが歩いているなんて信じられない。幽霊が歩いているみたい。

……あなたの気力・体力はたいしたものね。感心したわ。入院の時メモを書いてもらったでしょう。しっかりと文章が書かれていたし、何時でもベースメーカーに切り換えられるよう用意してあったのよ。使わなかったけれど、体力があるのね。

……計算通り減量出来るなんて、さすがね。(発病時八十八キロ。入院中十七キロ減量。退院後七キロ減量。現在六十四キロ。)
……その電気衝撃器、入院の時あなたもその御世話になったのよ。覚えている？

等の話があり「常識的には死んでいたのだなあ」と追想する。その後の経過は良好で、絶対安静から病室内を自由に行動出来るようになったのが八月十五日。この日にc・c・uより、一般個室病室へ移り、カテーテル検査を九月中旬に行ない十月九日退院した。

妻と友情に感謝の日々

何故こんな病気に罹ったのか？ 原因は過労につきる。「ストレスと馴れぬ肉体労働が重なった場合」との通説通り、当時負債総額一四〇億円赤字三〇億円をかかえグループ二〇社より成るMCKへ出向し、朝に大阪、夕に東京、昨日は長野、今日は沖縄と、一日睡眠時間四時間程度で、同族役員十数人を相手にしながら働いていたのである。然し更に具体的に一日一日の生活を反省して見ると、その中に病気を恐れぬ過信があり患いを招いたとも言える。医師は

『あなたの人生観が病気を招いたとも言える。ここで人生観を変え——そう日常の歩き方から変えるようにしたらどうか。せかせかと歩かずに、ゆったりとしかも落後しないような歩き方がある筈だ。』

とのアドバイスである。至言と感じ入った次第である。

目下、毎日の日課は歩く事……(毛細血管を発達させると心臓が丈夫になる)……日常生活の目標は減量……(五十八キロ迄残り六キロ)……である。大病を契機として禁煙・カロリー制限・糖分制限・塩分制限・脂質制限等健康であった頃には到底耐えられないような生活の中に何の抵抗もなく溶け込めている。妻には心労に加え看病疲れで一挙に十歳以上も老け込まれてしまった。

「ビーポー」の救急車の笛声を聞く度に、「私は助かったのだ」の实感を覚えると共に、九死に一生を得た高見先生の友情と妻の愛情に感謝している。(おわり)

TVづいたよ！

——ふるさとの便り——

ちかごろ、TVづいたというのか、ふるさとのニュースが頻りにTVや新聞を賑わすような印象を受けているのは、私だけではなさそうに思える。郷友たちの集りなどでもよく話題になる。現に本年に入つて、さる一月十五日のNHKの「芸能百選」に山南町の古典舞踊の一つ「三番叟」が披露されたり、篠山の「デカンショ節」が華やかに古城をバックに画面いっぱいに展開されたりして郷愁をさそわれた。

この外前年秋には、同じNHKの「婦人百科」の番組で竹田の石像



大谷雅彦君

夏のは春は町日茄子（明るい農村）やしぶい織物丹波布も紹介、一方、朝日新聞七月四日付には県立柏原高校三年の大谷雅彦君（一七歳）が角川第三二回短歌賞を受けた事が紹介されて、丹波人を驚かした。選者にいわせると不思議な才能の持ち主というのだが、全く驚きである。

寺の妻女西村節子さんと俳人西山小鼓子（西山酒造主人）との登場で、丹波の山芋料理やぼたん鍋が語られ、
今日も来し膳碗つきや芋の秋 小鼓子
が披露されてなつかしかったのであった。



石像寺山門前にて。 向って
（右）が西山氏、（左）が渡辺金三氏

その歌は、

雑草（あらくさ）の最中に光る泉あり

春のひかりの在処（ありと）と思ふ

を含めた五十首で題は「白き路」

何れにしてもふるさとのよきニュースが伝えられることは私たちに
は嬉しい限りである。（松）

自然を友として

木村つたゑ

（市島）

昭和五十一年は私のエトの辰の年であった。「今年こそ何かいい事
がありそうだ。とにかくハッスルしなければ」と元日の朝張り切った
のがついこの間のような気がしているのに、もう来年の年賀状を書か
ねばならない師走がやってきた。光陰矢の如し、と云う言葉が年と共に
身にしみて感じられる。去る八月十三日の自分の誕生日には「とう
／＼六十年を生きてきてしまった。このあたりで六十の手習いでも始
めねば」と、またしても覚悟ばかりは立派だが何もそれらしいことに
手をつけないままに一日一日が逃げるように過ぎ去って行く。こんな
ことではないけない、何か自分にはやらねばならないことがある筈だ。
巷には「ロッキード旋風が吹き荒れて私等庶民には縁のない大金が黒
雲のように空を覆っているようだ、私の家の小さな庭の木々や草花

はそんな雲とは全く何のかかりもなく太陽の恵みを存分に享受して、春夏秋冬自然そのままでの正真正銘の姿で私にささやかな幸せを味あわせてくれる。中でも鶯草は私の大好きな草花である。真夏の日盛りに純白の翼を広げた白さぎそっくりの可憐な白い花はまるで悲しさを秘めた若い佳人の化身を想わせる。絹糸を並べたような両のつばさ、すんなりした頭の形、透き通るような淡い緑の二本の足など、自然の神技は何とすばらしいことをなさるだろう。こんな小さな草花に至るまで、私は数年前から夏が来るとこの鶯草に魅せられて一日中あかず眺めている。

私の家の小さな庭には、何種類の木や草花があるのだろう。つげ・かいづかいぶき・黄金ヒバ・檜等の常緑樹の他に白木蓮・くちなし・つつじ・ざくろ・ぶどう・山茶花の紅・白・柚・山吹・小手毬・ふじ・バラ・にしきぎ・あやめ、その上足元には丹波から持ち帰ったせり

幼い日の丹波

和田 菊江

(春日町)

十一月十三日、氷上郷友会の席に初めて出席する。東郷神社バス停あり、石の鳥居をひと足入ると静かな小公園、ついでにちよつと参拝、東郷会館に十一時集合のはずが、まだ人もまばら。ロビーで待つ

やすみれが、飛び石の間を縫うように這っている。よくもこれだけ集めたものだと思ながら感心している。だかどの草木にもそれぞれの思出が秘められている故いつそう愛着を覚える。殊にバラは、三十五年間毎年のように咲きつづけてはなんもののバラ色で内と他の眼を楽しませてくれる。このバラの贈主は昭和二十年の東京大空襲で一家全員焼死されたがバラは残ったのである。そして私等一家の杉並から調布へと起伏の多い生活をじつと見つめながら何かを私に語りかけてくれるような気がする。『いろいろありましたがあなたもソロソロ自然と語れる年齢になりましたネ、これからは私らを相手に優雅に暮したら如何ですか』こんなことをささやいてくれることだろうと思いつつ過ごす今日此の頃である。

美わしき老年のため学びつつ

ふり返ることの多き日々かな

こと一時間半、さすがは丹波の会である。ぼんやりと待つ間、しきりに丹波の昔が思い出される。

——父と馬車に乗って、黒井駅まで汽車の時間を気にしながら走った。おじさんがひどくムチ打っていた馬が、とても可愛相だった。父がおじさんに五十銭銀貨を一枚渡した。おじさんは何度もおじぎをして荷物を汽車の中まで運び、いつまでも見送ってくれた。あれはもう五十何年も前のことだが、昨日のこのように去来する。

国領から人力車、それがバスになり、戦争前後は徒歩に逆もどしした。上三井庄から黒井まで二里半、重い荷物を持ってよく歩いたものである。やれ暗闇だの提灯だのと目まぐるしかった。戦争のおかげで

田舎も人間もすっかり変ってしまった。変らないのは山と川だけ。

——母が病の床につき、幼ない私が前の川で洗濯をする。冷たい風、頭の中でジンとくる水のような水に手が痛む。清い流れは汚れを一瞬に流し去り、また小石の底を写し出す。ようやく終えて土手に上がるのを見つけた隣りのおじさんが、「菊や、えらいのお……。さあ、あたれや」と、焚火をしてくれたものだ。とめどなく涙があふれた。あの涙、無性になつかしい。あの小川の水よ、いつまでも清かれと願う。

——その小川の前に竹藪、その隣りにミトウチ神社、大きな銀杏の樹、そして秋祭り、父も村の衆も、色あせた身丈の長い羽織を着る。一円札を半紙に包んで「今日は好いお天気でおまつしやなあ……」とお宮さんに行く。湯飲み茶碗に一ぱい、お神酒をいただき、ちよつと赤ら顔してにこにこ帰る夕食は、松茸ごはん。松茸といえは、大きな

詩

歳末寓感

須原 松柏

(市島竹田)

(一) ロッキードで明け いまもなお

深奥 不透明 そのままに

一九七六年 年の瀬や

寒々として 暮れて行く…

のを山で焚火して焼いて食べたものだ。あんな美味しい松茸はもう食べられない。それに丹波の黒豆……。

——丹波の思い出はつきない。

郷友会はあつてなく終った。もつとも好きなだけ語っていたら何時間あつても足りないだらう。年に一度従姉に逢い、いつも丹波の思い出を語り、夜のふけるのを忘れる。子供たちが、よくもまあそんなに話があるね、と笑う。

丹波の皆さま、故郷の思い出を、どうか大切に、年に一度は郷友会に持ち寄り、思い出話しに花を咲かせましょう。もつともつくさんの方々のご出席を！ 苦労しても長生きした甲斐もあつたというものです。

枯れ木焼く 丹波のにおい 幾とせも

(二) 見せてはならじ 楽屋うち

社会体制 ひび入りで

秩序と安寧 維持できぬ

こんなところの 幕引きか

(三) こころあたりで 幕下ろし

日米韓の ドス黒い

癒着の姿 見せぬのが

安泰国家と 申すべき？

(四)

ジャーナリズムの 喧噪と
無力野党の 空^{から}さわぎ
与党内部の 派閥力
幼稚な見戯や 猿芝居

(五)

政治の混迷 いつ果てる
選挙のあかし 如何にやと
かたずをのんで 待ってたが
変りばえない このさまで

(六)

この世の底辺 小企業
冷え切り不景気 風の中
金利と債鬼に 追われつつ
明日とてもなく 晒らしもの

(七)

春待つ心 一入に
景気の風は いつ吹くや
マイルド、クリーンな 世の中を
希^{こいねが}いつつ 除夜の鐘

——一九七二——二二——三二——

短

歌

高原の朝

藤 本 久 一

伊賀の国山高原に朝あけて桔梗撫子靡きふる雨

浅間全山見えすなりたる高原の時雨きびしく育つ甘藍

雪穂高晴れて間近し明日雨と里人読みとり夜に入りて雨

甲斐駒の淡墨色に暮るる時雀のつれあひ声を密にす

甲斐駒をかぶり起き臥し幾畝もトマト饅ゆるに任せてあたり

戸隠路山の奥まで耕の免れ難く林檎紅く蕎麦白し

南アルプス霧すさべるに遠富士は雲退き角度をもてる白光

白じろみ平面化されし甲斐の富岳稜線の流れなどかくやさしき

峯巒は畳まりをりて立つ霧のかげり明かりにうつつなかりき

蔵王の雲海白漠々と清爽に遙かに雪の月山すわる

見の限りもみちの蔵王は紅と黄に色全らせるあり匂過ぎもあり

新刊の紹介

一大正っ子の手記

泉 幸夫 著 (氷上)

『天皇在位五十年式典で思い出すのは、昭和三年の御大典である。』

小学二年であった私は上級生に連れられて旧城址や公園へ暗い夜道を提灯行列に参加したことを覚えている。昭和は、百姓昭明 協和万邦（書経）からとった年号で、国民の幸福と世界平和の理想を願ったものだと教えられた。しかし、前半の二十年は動乱の時期であった。

母校の鳳鳴中学は十一月で満百周年を迎えた。在学中に六十周年を祝ってから早や四十年が過ぎ去った。大正十年に生れた私は二月で満五十五歳を迎えた。

昭和五十一年という年は、私にとっていろいろな区切りとめぐり合せの年である。激動の昭和に生きてきた私は、今まで歩んできた途をふり返り、記録を整理してみたいと思った。

丁度、昭和三十年代を迎え、もはや戦後ではないといわれるようになって、国鉄問題は何かと面倒な問題にぶつかった。その頃私は新鉄局の総務部長に赴任した。以来、東鉄・関東支社・本社・千葉局と勤務したが、激動期に処する管理者の心構え・安全管理の徹底・高度成

長時代を迎えての国鉄の在り方・房総の思い出など、主として管理者の皆様にお話したり、書いたものが保存されていた。
その後、再び新潟に来て、社会福祉事業に携わり感じたこと、羽根越の歴史など足で学んだものを含めて「一大正っ子の手記」としてまとめた次第である。』

以上が著者発刊の辞である。内容は八部に分けて、歴史と国鉄に関する事項が多い。同郷のよしみで郷友各位に大いにPRしてもらいたいの希望である。

(発行) 弘済出版社 定価九〇〇円

予約受付

畑 正義著

『多利郷土誌』

本年六月刊行予定

著者はおよそ二十数年前、春日町誌（八三九ページ）を編集、出版して名声を博した郷土史研究の第一人者である。今回国会図書館を初め京都大学の史学室、古文書室、図書館など数十回に亘って資料を収集整理して集大成した。まさに決定版！ 五世紀から現在に至る。

● 予約申し込み先 氷上郡春日町多利・畑正義／氷上郡柏原町・丹

波新聞社／東京・千代田区・『山ざる』編集部

A5判・一八〇余頁・写真
・図版二二〇枚収載・定価
二、〇〇〇円・〒二〇〇円

柏原町で常岡氏個展

郷土出身の常岡文亀・幹彦両父子画伯の「丹波風景展」が柏原町の厄除祭当日の二月十七、十八の両日、丹波新聞社ホールで開催された。この度は各町別に風景画数点ずつを連作したものもあって、変形作品、扇面、色紙など五十余点に上り多彩であったため前景気もよく、殆んど売り切れるという成功を納めて閉幕した。

なお、同画伯は前年七月にも東京日本橋の中央公論社画廊で「小品展」を開きこれまた盛況で、郷友多数も観賞して会場を賑わした。

西崎祥さんの第二回古典公演

丹波の生んだ舞踊家西崎祥さん（柏原）が友人の西崎磨利さんと組んで第二回古典研究会を五二年二月二〇日東京芝公園のABC会

館ホールで華々しく開催した。前年の第一回とはさらに充実した内容で、第一部はお弟子さんたちのことも三番叟ほか七種、いよ／＼本番の二部に入ると、四季の山姥（磨利）鶯娘（祥）助六（若村喜久）最後に猩々を二人で踊りまくってめでたく踊りおさめた。郷友多数が激励をかねて観賞した。

訪中鍼灸使節団長に 小川晴通院長選ばれる

東京赤坂の鍼灸専門、杏林堂院長小川晴通氏が、日中友好鍼灸活動家訪中団団長として総勢二十一名を編成、さる十二月一日羽田を出発十五日間にわたり、上海—濟南—天津—北京、各地のハリ、灸医学の実際について、日中間の発展について研究と友好を重ねて、多大の成果を収め帰国した。

五十一年度柏陵同窓会開く

昭和五十一年度柏陵同窓会は同年五月二十二日（土）午後一時より東京原宿の東郷記念館で、左記四一名出席、前田和市君司会の下に開かれた。有田支部長の挨拶、村上末吉君の会計、及び事務報告。

梶浦長老の乾杯の音頭によって懇談に移った。会は和やかに推移し、鈴木和栄、足立かをる、足立正、前田和市の四君を世話係に指名、同三時すぎ散会した。

出席者・順不同＝梶浦浩二郎・前田和市・



上山頭・谷垣尚・有田喜一・足立正・足立源治・久保豊・小林武治・小林剛・藤田正雄・前田和秀・常岡幹彦・村上末吉・宇高直道・上野重喜・上野恵三・足立勲平・塚口智也・上野忠明・高見秀史・鶴沢洋子・鈴木和榮・前田照文・足立かをる・小島イキ・音無太美子・植村章子・安原三智子・渡辺貴美子・森下千寿子・上村愛子・岩熊淑子・足立美都子・篠原よね子・神井あつみ・長尾貴美子・秋元多実子・高木幸子・谷垣とみ子・沢田みさを（特別参加）松山幸逸、以上

素晴らしい会誌「山ざる」

小西 保（旧姓田氏）
（柏原）

「山ざる」7号を拝見して所感を送ります。渡辺隆男氏の「常岡画伯・故宮誘拐記」は達者な文章で面白く読みました。この文章を読んで故宮博物館に一層の魅力を覚え、出来れば一度行って見たいと思っております。

常岡画伯の遠坂峠の画も素晴らしいと見とれました。丹波も乗ったものではありませぬね。

上山頭という方は柏中時代私の一年か二年上級におられた秀才の聞え高かった方ではないかと思ひます。なか／＼の学者ですね。大新屋出身とあるところを見ますと下小倉中路の旧・田新宅（私の生家）の墓地に上山家の墓というのがあった一あの上山家に縁のある方ではないでしょうか。昔は大官とか。

その他あの本に掲載されている文章を拝見しますと、皆立派なものばかりで「山ざる」どころか、同郷の方々の中にこんなに沢山教養豊かな方がいらっしやるのかと感心しました。素晴らしい事です。

また巻末の名簿を見ますと知った方も若干あり、池上碩郎さんや田敏夫さんのアドレスも判りました。（下略）（京都産業大学教授）編集部註「この文章は姉に当る林田孝子さんが筆者に送られた『山ざる』第7号に対する礼状に添えられた一文である。

氷上囲碁会の成績

囲碁同好会成績表

月	日	51・2/28	5/29	8/2	52・2/5
渡足新三主藤小川松坂佐林梶上下小	辺立島	2-3	2-4	4-7	4-4
	沢居田	3-5	5-3	2-8	7-0
	林端山	4-2	—	—	—
	上野谷	1-1	0-3	0-1	4-1
	浦原中	1-3	2-3	—	2-4
	川	5-1	—	5-6	—
		1-4	1-3	6-5	0-5
		4-1	—	6-0	1-3
		3-3	3-3	5-3	3-3
		—	3-4	—	2-4
		3-4	—	—	—
		—	6-1	—	—
		—	4-2	—	—
		—	5-1	4-2	2-3
		—	2-5	—	2-3
		—	—	—	3-4

数字は左勝・右負

氷上囲碁同好会は左の通り前年は三回しか対局が行なわれなかった。その理由は世話役の故障や五反田の囲碁倶楽部が閉鎖されたため。なお五二年第一回戦は市ヶ谷の日本棋院

本部で行なった。各回の戦績次の通り。同好会では郷友各位の参加を切望している。

初春碁会 五二年度初春囲碁同好会は二月五日東京市ヶ谷の日本棋院で開催。九死に一生を得た下中昭男氏や小川杏林堂主人も多忙の中をかけつけ十二名で対局。結局足立正氏が優勝。二位三沢、三位松山の成績であった。

光山女史の厚志

光山秀子女史（氷上町石生）は、さる一月十三日友人の木村つたゑ夫人を通じて

「山々る」の制作費の一部に充てられたいと金二〇、〇〇〇円を郷友会に寄附をされた。光山夫人は前年にも同様趣旨の下に寄附を送られており、本会から礼状を送ってそのご厚志に感謝の意を表した。

なお、光山女史は本年七二歳だが、女性は何かを身につけておくことが老後においても大切であるとの信念から早くから茶道、華道の奥義を修め、後進を指導するかたわら戦後

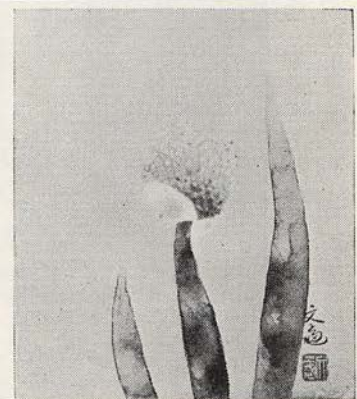


小袖管我の母シテ振り（右）

から宝生流能楽に凝って今日では会流の重鎮として活躍されているとの事である。

入会記念として 上田氏より寄附

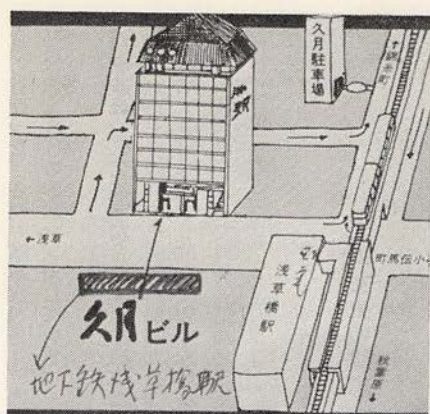
51年11月本会に入会された東京四谷駅前で松尾フルーツを経営されている上田鉄太郎氏より入会記念として金一〇、〇〇〇円を本会に寄附され、本会では同氏のご好意に対し有難く受領した。



表紙画家紹介▼常岡文亀画伯は明治三一年柏原町に生れ、東京美術学校日本画科を卒業、結城素明先生に師事、母校教授となる。その後文展審査員、大日本美術院同人、日展委嘱等日本画壇の重鎮として郷土出身画家の大御所である。帝展に「鶏頭花」及び「棕櫚」を出品、それぞれ特選「カンナ」は政府買上げの榮譽を受けた。さらにシンガポール総領事館をはじめ在外公館の作品を制作、世界的に知られる。なお文亀画伯の長男幹彦氏も父と共に日本画家として活躍している。

渡辺紙工業「久月ビル」に移転

渡辺紙工業東京支店営業所及び渡辺製袋東京支店は従来の柳橋にある事務所がせまかったため、五二年一月十五、六日の両日に互に国電、地下鉄浅草橋真ん前に新築された「久月」ビル8階に移転し引きつぎ営業活動を続けている。こんどの事務所は事務室、会議



室、応接間、更衣室などもゆったり取ってあるため『郷友会の会務打合せなどにもどし／＼利用して貰っても結構だ』と、渡辺社長から好意のある口添えを貰っている。両事務所の所在次の通り

東京都台東区柳橋一ノ二〇ノ四久月ビル8F
電話番号 八六一—二三三一(代) 従来通り

「山ざる」強化の会

本会役員、協賛者たちによる「山ざる」検討会は五一年六月六日東京五反田のコックドールで開催、有田、足立両会長はじめ二十四名の出席を得て開催された。席上「山ざる」の内容を一層充実するためのいろいろの提案がなされ、さらに、十一月に行なう「長寿者を祝福する会」についての準備について記念品、資金等を論議され、何れも会長一任となつて散会した。当夜の出席者次の通り。

有田喜一 足立三治 荻野定一郎 生駒篤郎 西川政一 渡辺金三 木村つた多 植村章子 村上末吉 竹村政雄 小谷正己 足立

六月六日の会スナップ



誠一 須原清 永井常資 前田和市 常岡幹彦 西崎祥 足立正 小谷剛 渡辺隆男 秋元多美子 伴仲信次 近藤勇夫 松山幸逸 以上

新会員紹介

有難とう

横浜市旭区東希

望ヶ丘一三三A

八〇二村上善英さ

んから

『この度、柏原町出身の先輩井本義一氏（太陽神戸銀行勤務）より首都圏に氷上郡出身者の郷友会があることを教えられました。

私自身も妻も柏原で生れておりますので貴会に入会させて頂きたく、入会の方法その他お知らせ下され度。なお私の近くに住んでゐる幾人かもおりますのでお知らせします。』

このような趣旨の手紙を頂いた。早速本誌第7号をお送りしましたが、このような例は他にもあるかと思ひますので御手数ですが、御連絡頂きたいとお願ひしておきます。

井本さんから御紹介頂いた方次の通り

久保 順太郎氏 〒253 茅ヶ崎市赤松町六一

一〇二〇四

深田 正樹氏 〒223 横浜市港北区日吉町二

六三白鳥さん方

（この三氏にお願い。生年月日、学歴、職歴、趣味などお序の節お知らせ下さい）

◎本年度新入会者

柳田 定（サダム） 紀子さん 昭和51年11月

〒344 春日部備後田島二二三春日・黒井
電〇四八七—三五—三七三—

上田 鉄太郎氏（芦田律子さんの紹介。明35

生） 〒102 千代田区麹町六ノ六 松尾フ

ルーツKK社長 電二六四—五〇六〇—
（春日・野山）

村上 善英（S12・1・23）（柏原・本町）

由紀子（S18・5・1）（山南・村森）

住所・横浜市旭区東希望カ丘一三三—A—
八〇二 電045—363—九九八〇 戸田建設562

一六一一勤務

さる43年に柏原と山南の二人が田舎で正式結婚式をあげすぐ夫が東京勤務となつて上京しました。がまた二世は誕生せず、好天の日など二人でノンビリ丹沢山を歩いています。丹波弁の通じあう二人です。

畑 雅樹氏 〒240 横浜市保土ヶ谷区岩井町

国鉄ビルB—13 電〇四五七—四一四九九

九 国鉄本社職員局勤

畑 健氏 〒187 小平市鈴木町二ノ一七七小

平ビル—13 電〇四二四—六一七〇—

二 電々公社武藤野電通研究所管理室

以上二氏は父親畑正義氏（在春日町）よりのお奨めにより入会された方です。

大沢 まつ子さん（谷川）私と同村の阿部す

み江さんをご紹介します。左記へ「山ざる」

を送つてあげて下さい。

千葉県我孫子市我孫子七六—二

（なお、阿部さんからはさる四月末、会費

を送つて貰いました。大沢さん、どうも有

難とう存じます。）

荻野 公三氏 より同期生の野村 豊さんの

住所を知らせて頂きました。

東京都世田谷区船橋七—四—一二 電四

八二—九九三〇 勤務先日本旅行社〇三—

二五三—四四一—

有力郷友の

悲報続く

五一年中に多年
会のために協力し
て頂いていた方々
の訃報を聞き、ま

ことに残念であった。謹んで哀悼の意を表し
ご冥福を祈る次第である。

上田 要氏（上田短資会長）六月二十七日急
性心不全のため芦屋市の自宅で逝去。告別
式は七月三日西宮市楠会館で執行さる。亨
年九〇歳。

近藤 林蔵氏（近藤写真製版・会長）十月二
十一日逝去。告別式は十月二十六日新宿区
の本社において社葬をもって執り行われ
た。享年八五歳。

長富 千代一氏（長富工務店社長）十月二十
日逝去。告別式は十月二十七日東京下谷の
世尊寺において執行さる。享年五〇歳の働
き盛りであった。

荻野 英夫氏（中央建材・会長）十月二十九
日逝去。葬儀・告別式は十一月十一日東京
青山葬儀所において執り行われた。

何れの葬儀にも本会から生花を捧げ、ま
た郷友多数参列して弔意を表した。

小谷 かよ子さん（本会財務部長・小谷正己氏
夫人）五月十六日逝去さる。

大石 勝郎氏（柏原）五一年二月三日永眠
さる。夫人いくさんより連絡ありました。

藤原 信男氏（加東郡）五一年二月六日永眠
された由、長男重信氏より連絡ありました。

荻野 演一氏（青垣）五一年一月三〇日ご逝
去。

宇野 正活氏 五一年五月二日ご逝去。

小林 章乃さん 五一年十二月十九日ご逝去。

転居・新任

井本 義一氏（柏原
町）八月の人事
異動により左記
に転動しまし

た。羽田空港の行き帰りに是非お立寄り下
さい。

太陽神戸銀行浜松町支店、（世界貿易セ
ンタービル内） 電 四三六―二七八一

西山 敬次郎氏（市島町中升田）大阪通産局
長から同夏帰京し（中小企業庁へ次長に就
任）目下おいまわされております。

笹倉 孝子さん（氷上町石生）主人の転動の
為大阪に帰りました。大阪府八尾市二俣三
一九―一三 電〇七二九―二二―一四五八

志村 勝郎氏（柏原・屋敷）三十四年間勤務
しました農林省を十月一日付で退職し、引
続き財団法人競走馬理化学研究所へ勤務し
ております。農林省では牧場、本省、試験
場と勤務の場所は十一回もかわりましたが
一貫して畜産に係る仕事をして参り
ました。

原 功氏（春日町黒井）転動の為左記住所に
変りました。〒538 大阪市鶴見区諸口町六
七七―三 シャンボール鶴見三〇一 電〇
六―九一二―二三四〇 勤務先、芳沢機工
株大東工場

木内 実喜夫氏（青垣町佐治）東京を離れて
満三年、出張での上京はあっても何となく

おのほりさんになって来ました。

井上 巖氏（氷上町）転勤により和歌山に来ております。いろいろお世話になりました。

とうございました。（花王石嶮和歌山工場事務部）

芦田 務氏（青垣町西芦田）四月一九日大阪

お便り

（着順及び配列順不同）

芦田 律子さん（青垣・西山）「山ざる」になつかしい方々の住所氏名等がわかり今後が楽しみです。皆様方にまけない様に丹波人のねばりで一生涯懸命頑張って参ります。どうぞよろしくお願い致します。

娘時代に修得致しました華道末生流の教授をしております。主人は衆議院に勤め長男、長女、四人暮しです。便利な所ですので何かとご利用下さいませ。

秋元 多美子さん（氷上町常楽）何時も種々ご配慮を頂きご苦労様に存じ感謝致しております。昨年九月末に主人が急逝致しまして、先月末ようやく一周忌を終らせましたばかりでございます。この次の時には必ず出席させて頂きます。

小林 剛氏（市島）ソクラテスの言葉に「仕にして公正なれ」とあります。齢、ようやく五十五を超えました。もう十分に「仕」の域に達したことを自覚し、「公正」に身を処することを念頭に、人生探求の旅を続けてゆこうと考えています。

また、世の中にはなお一層学ぶべきものが多いということが判るようになりました。

久保 豊氏（山南・岡本）丹波を出てから二十七年、自分の故郷が自分の子供の故郷とはちがうのが、何んだか寂しい感じがいたし

の新勤務地に着任してはや半年が過ぎました。新しい職種に変わったためとまどいながらも毎日頑張っています。陰ながら会の御発展をお祈り致します。

ますが、でも故郷のあることにしあわせを感じています。

塩見 つるあさん（市島・徳尾）もう八十歳にも近くなりましたが主人共々大変元気で余生を楽しみ暮しています。朝晩は仏前で読経を忘れなくお勤めを続けてその日／＼を感じ謝しています。

小谷 寛治氏（柏原・古市場）六十五歳になりましたが、健康で動いています。

小中 克己氏（市島町）先般足立氏より郷土の先輩荻野英夫氏死去の連絡をうけその御厚意に感謝しています。郷友会がこんな時にもよき連絡者となって頂くことを期待しています。本年三月より子供の進学（大学高校）のため家族を東京に（杉並区）移し単身で頑張っています。

菊池 洋子さん（氷上・幸世）長寿の方がこんなに多勢いらっしゃるのを知っておどろくと同時に心から皆様の御長寿をお祝い申し上げます。私は十一月は演奏会がいくつかわり都合がつかみせんので残念です。

奥谷 松治氏（市島・鴨庄）昭和五十年は一年間病院生活をしましたので、病気はほとんど全快しましたが、余後の養生に努めています。

小田 利江さん（柏原町）いつもお世話になりましてありがとうございます。一度出席させて頂きたいと思いがちよつとはずかしいという気も手伝ったり、家が忙しかつたりで御無沙汰ばかりしております。会の御発展を心からお祈りしております。子供の事が一段落したら必ず出席させて頂きたいと思っております。

足立 範雄氏（青垣・佐治）毎度御連絡を承り有難う御座います。郷友会も年毎に益々御盛大の様子心より御喜び申し上げます。不肖亦至極頑健張り切つて居ります。

上村 愛子さん（柏原町屋敷）神戸、大阪で生れ育ちましたが、疎開のおかげで両親兄弟揃つて故郷母校を同じくすることが出来ました。父山脇俊男、母、旧性広沢まさ、弟山脇猷一、妹めぐみ、きよ子、義子、です。今夏はゆっくり帰郷出来、父と柏原を歩き廻り二、三十年前はこうだった、あんなだったとのび合いました、三十年前の子供の頃の様子もいろ／＼話してくれました。

安達 恭二氏（氷上・賀茂）本年二月慶応大学病院を退院後まず／＼平穩に暮して居りますが表立った事は一切差控えております。

足立 かをるさん（春日町黒井）十月十日に横浜に一部引越しましたので、住所は二ヶ所を書きました。行つたり来たりの生活を致しております。安達葉子様、名簿に載っている方ですが今度より出席させて頂きます。

長谷川 美世子さん（柏原町）いつもお誘いいただきまして有難うございます。毎日ピアノを生徒に教えて居りますので出席する時間がとれず失礼いたして居ります。実は私は

旧性高桑で、たまたま父高桑良興が柏原中学校長として六年間柏原の地に過しましただけで柏原町出身者とは言えないと思いますが、第二の故郷として女学校時代を過した柏原は私にはなつかしい／＼ところでございます。

久安 敏夫氏（柏原町）長年サラリーマン生活をしてきました為、自分本来の職のない淋しさを痛感しております。健康保持のため専ら山歩きを致していい空気を吸い浩然の氣をやしなっております。

野村 虎男氏（柏原町）勤務の無くなった現在は専ら高令者教室に通つたり、走つたりして心身を健康に保つ様に計らつて居ります。子等が昨年家族共々古稀を祝つて呉れたので今度は喜寿まで、そして米寿迄祝つて貰おうと依存のみです。郷友会のます／＼発展と皆さんの御健康をお祈りします。

高尾 久子さん（柏原町）来春高校を受験する長女をかかえ、あと何カ月、あと何日と指折りかぞえ、息のつまる様な毎日でございます。

田 健一氏（柏原町）国立の長岡工業高等専門学校を校長を拝命しまして七年目を迎えました。難しい時代に入りましたが、新しい工業技術者の養成に打ち込んで居ります。

高見 安亮氏（春日・棚原）十月の末丹波へ行って来ました。春日町も道がよくなりそのため交通事故がふえ中学生以下と老人など夜光るたすきをかけあっていました。とても良い事だと思いました。

瀬々 妙子さん（柏原町）来年こそマイホームプランを実現すべくやりくり予算の真最中です。何事もスタートのおくれた私は自分の老後と成長期の子供とのバランスを如何にうまく合致させるかが課題です。戦争中の家庭菜園よろしく子供向きの畠コーナーは是非作りたいというのがただ一つきまっているプランです。これで庭のスペースはゼロ、戦争を語り継がせる一端になろうかと決意しています。

杉岡 明美さん（水上・南油良）今夏二年ぶりに帰郷いたしました旧交をあためて参

りました。帰るたびに郷里の発展ぶりに驚かされます。

勝野 きしのさん（春日・池尾）このところ数年の間、運動会や職員旅行等が重なりまして思うように参らず大変失礼を致しました。務めのある身故何卒御容赦下さいませ。今年は珍しく当日何の予定もございませんので喜んでおります。

私の勤務先の「あゆみの家」と申しますのは新宿区内の肢体不自由児・ちえおくれ幼児達の通所施設でございます。私はこれ等お子達の保健衛生面の管理を致して居ります。

不幸な子程いっそう可愛いのだとえががありますとおり、接すれば接する程あどけなさがあり身につまされ、清らかな瞳にひかされ我を忘れての介助に生甲斐を覚える毎日でございます。会誌の「山ざる」を愛読させて頂いて居りますが殊に丹波における歴史などは足元暗しの感がございますので有意義に読ませて頂きました。

前田 和秀氏（柏原町）残念ながら毎週火木土曜日に外来診療をしていますので診療が午

後迄かかり出席出来ません。私も九月十五日に左記の場所に住居を新築し四十五歳にしてやっと一人前になれた様ですが、既に父前田太郎は他界してしまい残念でなりません。（五〇年一月四日死去）父の意志に従って少しでも世の人の為になることを考え現在はリハビリテーション診療に従事しています。

須原 清氏（市島・下竹田）ご高令者十四名と拝承。どんな健康法をとっておられるのか伺い度い、そしてアヤカリ度いと思っております。小生、三橋一夫氏の「二十四時間強健法」（ダイヤモンド社）で衰頹を予防しているのですが……。

上田 吉明氏（柏原町）残念ですが勤務の関係でこんどの会合には出席出来ません。「山ざる」は大変楽しく読ませていただいております。今後共よろしく願います。私の弟の上田実氏は二年前より柏原の方へ帰省しましたのでよろしく。

五一年度総会開く

昭和五一年度総会並びに長寿者を祝福する会は同年十一月十三日午前十一時より東京原



総会記念写真（東郷記念館庭園）

宿の東郷記念館で開催した。

当日は、お祝いを受けられる十三名のうち赤松たつさん、菊地頭三氏、植木伍鹿氏、野村利吉氏代理、渡辺泰三氏代理など早々と出席されていた。定刻渡辺金三副会長の開会の挨拶につづき、足立会長より、出席の長寿会員にお祝の言葉を述べたあと記念の銀盃（三重）と有田名誉会長揮毫の色紙を万場拍手裡に贈呈を行なった。

このあと会務報告、会計報告があつてパーティに入り、植木伍鹿氏から八十歳とは思えぬ若々しい声をもつて力強い謝辞を述べ、和気あい／＼のうちに散会となつた。

当日出席者次の通り

（敬称略）

足立かをる 生駒篤郎 畑 義則 安達葉子 植村章子 村上大憲 勝野きしの 渡辺金三 伴伸信次 田辺善人 小林武治 上山頭 足立三治 吉住重造 和田菊江 村上末吉 小谷正己 前田和市 永井常貴 西川政一 栗原重次 山中一朗 須原清 足立正 足立治 野村豊
以上の諸氏。

地元町長さんから

おめでとう

平岩慎吾氏（青垣町長）

定期総会のご案内をいただき有難うございました。

当日は、地元選出の県議員、生田克己先生の叙勲（勲三等瑞宝章）祝賀会が予定されておりますので残念ながら欠席させていただきます。末筆ながら会員皆様のご健康とご隆昌をはるかに祈り申し上げます。

足立一郎氏（青垣町議会議長）

総会おめでとうございます。

当日は生田克己県議の叙勲の祝賀会がございますため、不本意ながら欠席させて頂きます。遙かに丹波の地より当会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

石井敏秋氏（氷上町長）

総会当日生田県議員叙勲発令につき祝賀会及び郡交通祭が催されます。

ふる里は遠きにありて思うものが一変しつ

つあり申訳ありませんが、いま私の町も佐治川改修とは場整備、全町水道の大型事業を、さらに心に豊かさをとり戻し生がいにあふれた地域文化の向上のために公民館建設に取り組みつあります。また水上郡町長会長として広域行政に水上郡は一つの和をもって努力しております。ご安心下さると共に、よろしく指導賜りますように。

五二年度初役員会

上山・小林兩氏を

顧問に推せん

五二年度新春初の役員会は二月四日午後五時より事務所で開催、足立会長ほか十七名出席、会務報告、「山ざる」原稿の内容検討を行なったあと、新しく顧問として上山頭、小林武治の両氏を推せんすることを満場一致、決定、理事は今秋の総会において改選することとなった。



上山 顕氏

そのあと近くの「おおむら」において夕食を供にして乾盃して七時すぎ散会した。

当日、足立会長、西川顧問より酒代の寄附を受けた。

●新顧問略歴

上山 顕氏 柏原町の出身、東大卒業後当時の内務省に入り、以後地方庁をふり出しに戦後は厚生、労働両省の部長、局長を歴任、福祉関係のベテラン行政官として活躍される傍々、陶磁器に関しては一家言の主である。本誌前号に「柏原町高見出土の宋代青磁碗」の一文は殊玉の文章であったし、また



小林武治氏

「回想と覚書」一冊も市価を高めた。今後本会の発展にご協力下さる筈である。

小林武治氏 明治三十九年四月生れ。春日町新才の出身で柏中、国学院卒業後教職を経て終戦後より国学院学園の経営に参画され、今日の国学院の興隆の基礎をつくられた功勞者である。同大学の理事長で国学院高校長をも兼ねられ、一方私大連盟理事その他私学関係の数々の要職を兼ねられ、日夜多忙な活躍を続けられている。趣味の多い多才の文人でもある。

自昭和50年10月1日
至昭和51年9月30日

昭和51年度 会計

報告書

関東米上郷友会

収 入		出 支	
科 目	摘 要	科 目	摘 要
繰 越 金	現 金 振替貯金	出 版 費	山ざる7号製本印刷其の他
会 費 収 入	145名	印刷通信費	総会役員会通知書印刷送料他
広 告 収 入	会誌山ざる7号広告掲載料 37名	支払手数料	振替貯金振込手数料
総会会費収入	30,000×1名 3,000×29名	総 会 費	50.11.9. 会場諸費及食事代 31名
賛 助 金	高齢者御祝い基金 14名	会 議 費	51.2.6. 役員会費徴集 1,000×17=17,000名 食事代他費用 26,340
寄 附 金	会長、植村、光山、永井、以上4 氏よりの寄附	雑 費	丹波新聞新年広告掲載料 10,000 封筒等消耗品等 4,000 小谷さん花輪代 8,000
		繰 越 金	次期に繰越現金 20,727 振替貯金 376,374
合 計	972,926	合 計	972,926

会費領収報告

領収日時 昭和51年1月31日現在

51年度分 小林章乃・上田三四二・同要・

久保豊・河津助治・正呂地群治・和田菊江・

秋山一男・小林剛・横田公子・奥田松治・角

田弘子・阿部すみ子・同正治・大沢松子・村

上末吉・山中一朗・常岡文亀・足立誠一・須

原清・渡辺幸子・同金三・松山幸逸・西川政

一・足立三治・有田喜一・伴仲信次・近藤田

治・小谷寛治・荻野公三・逸見あや子・谷垣

博・西岡萌子・斎藤俊一・大木千里・荻野完

二・大池富美子・森田節子・藤原庸三・荻野

綾子・木田実喜夫・藤尾ち多子・石久幸太郎

・木寺昭三・上山顯・田季晴・波多洋三・同

道子・高桑良弥・大野渥子・林谷集・東田実

・芦田坦・綾木健・谷垣尚・赤松たつ・菊池

顯三・中島義則・村上大憲・竹林すま子・勢

川武彦・荻野武・泉幸夫・有田毅・田村克典

・音無太美子・菱田ふみ子・山崎永子・勝野

きしの・高木幸子・足立石蔵・畑義博・西垣

秀正・片山日幹・柿原庸・莊克衛・深尾優子

・室井利代・婦木一男・安達葉子・足立かを
る・西山謙三・田辺善人・中野周子・天野清
子・足立徹・芦田律子

52年度分 足立幸夫・同疆・土田直吉・足

立要・山本忠・小谷正己・袴塚節子・近藤敏

雄・足立玉治・安達健一郎・勝野きしの・伴

仲信次・小谷正雄・松山幸逸・足立正・須原

清・谷垣正雄・坂上勝朗・竹村政雄・山中一

朗・西川政一・植村章子・足立誠一・常岡幹

彦・前田和市・足立三治・渡辺金三

50・51年度分 八木むつみ・生田清弘・佐

藤菊子・大槻作次郎・大西俊治・小野智恵子

51・52年度分 関正治・小田利江・三宅良

夫・志村勝郎・西崎祥・田辺輝一郎・林田孝

子・瀬々妙子

47・51年度分 萬川てるよ

48・52年度分 近藤林蔵・足立一郎・植木

49・51年度分 荻野英夫・芦田務・三宅博

伍鹿

本会役員（順序不同）

顧問 荻野定一郎・生駒篤郎・西川政

一・小谷正雄・上山顯・山林

武治

名誉会長 有田喜一

會長 足立三治

副會長 渡辺金三・伴仲信次・松山幸逸

監事 竹村政雄・須原清

理事 上山顯・横山幸三・永井常

資・山中一郎・村上末吉・前田和市・安達

陽一・荻野武・足立正・小谷正己・植

村章子・足立誠一・木村つた多・常岡幹

彦・高見嘉都司・田辺輝一郎・小林武治・

村上大憲・足立かをる・林谷集・足立

治・谷垣正雄・渡辺隆男

会費についてお願い

昭和五十二年度会費一〇〇〇円 会誌

にはさんである振替用紙をご利用の上、

ご送金方お願い申し上げます。

財務担当理事 小谷正己

会員各位

関東氷上郷友会の沿革

本会は明治二十九年（一八八六年）十一月二日、東京神田の料亭において創立の発会式を行なったといわれる。

当時東京帝国大学の学生安藤広太郎（後の農学博士）、同田昌（後の大蔵次官）氏らの奔走によって結成、会長には旧柏原藩主織田信親子爵、副会長に田健次郎男爵（元台湾総督）が就任。会の目的は、東京における郷土出身者の親睦と友情を深めるとともに、郷里氷上郡の開発発展に寄与することにあつた。以来七十余年、幾多の曲折を経ながらも今日まで存続し得たことは、先輩各位の郷土愛のためのもので、とくに井上雅二、矢本平蔵、小谷哲、石橋治郎八氏らの功績を逸することはできない。

昭和二十八年一月二十八日、東京新橋駅樓上の「日本食堂」で戦後第一回の「氷上郷友会」が開催された。百名を超える郷友が喜々として集い、戦中、戦後の飢餓と混乱、生死を生き抜いた郷友たちが、相擁して久闊を叙し、熱っぽい雰囲気であることや、ありし世代の苦

闘を語る感激の大会となつた。

田健次郎会長（昭和五年没）のあと久しく空席であつた会長の椅子は織田信大子爵、安藤広太郎農学博士とひきつがれたが、この歴史的大会において石橋治郎八石橋生糸社長を会長に迎えた。石橋会長は以来十八年間の長期に亘つて郷友会発展に腐心され、昭和四十六年八月、八三歳をもって逝去された。本会は昭和四十六年十一月、つるや産業社長足立三治氏を会長に迎え今日に至っている。

関東氷上郷友会会則

（名称）

第一条 本会は関東氷上郷友会と称する。

（目的）

第二条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて郷土の発展に資することを目的とする。

（会員）

第三条 本会は氷上郡出身者及び縁故者を会員とする。

（役員）

第四条 本会に左の役員をおく。

名誉会長 一名

顧問 若干名

会長 一名

副会長 若干名

常任理事 若干名

理事 若干名内二名会計担当

監事 二名

（役員の仕事）

第五条 会長は本会を代表し会務を統轄する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは副会長の互選により一名がこれに当る。常任理事及び理事は会務を執行する。

監事は会務及び会計を監査する。顧問は会長の諮問に応じ本会の発展を促進する。

（役員の選出）

第六条 会長及び役員は総会において選出する。

顧問は理事会の推薦により委嘱する。

（役員の仕事）

第七条 役員の仕事は二年とし、重任を妨げない。

（役員の報酬）

第八条 本会の役員は総て名誉職とする。

（会 議）

第九條 會議は總會と理事会に分ける。

總會は毎年一回十一月に開き必要に応じ臨時總會を開催する。理事会は会長、副会長、常任理事及び理事を以て構成し、必要に応じ会長が招集して開催する。

(會費)

第十條 本会の會費は年額金一〇〇〇円とする。

別に必要に応じ理事会の決定による額を徴集することができる。

(寄附金)

第十一條 寄附金は理事会の承認により受納

する。

(會計報告、會則の改正)

第十二條 本会の會計年度は毎年十月一日より翌年九月三十日迄とし、會計報告は十一月の總會において行なう。

本會則の改正は總會の議を経て決定する。

關東氷上郷友會 會員名簿



ある国には 資源がいっぱい埋っている
ある国には 技術があるという
また ある国には……

世界は 別々に豊かさをもっている

日商岩井は そんな1つ1つの豊かさを
結びあわせることで より大きな豊かさを
実らせたいと 考えています

明日のゆたかさを考える



1級建築士事務所

桂建築総合研究所

ビル建築の設計・監理

事務所建築・賃貸ビル・商業ビル・都
市再開発にともなう新築ビル・アパー
ト・マンション・住宅…等の新築ビル
経済性を尊重した優美な設計

株式会社 桂 工 務 店

店舗の内装設計・施工

住宅の新築・改造・増設施工・都市美
観工事にともなう街路・オーニング・
看板・電飾看板等の設計・施工
システム化された近代経営

株式会社 商 店 建 築 社

商業建築・建築関係図書出版・月刊誌
商店建築・TAU発行・名作シリーズ・
単行本写真シリーズ…等多数発行

春日町中山出身 村 上 末 吉

住所 東京都中野区東中野1-2-5 TEL 369-1834

古典医学・脈診研究

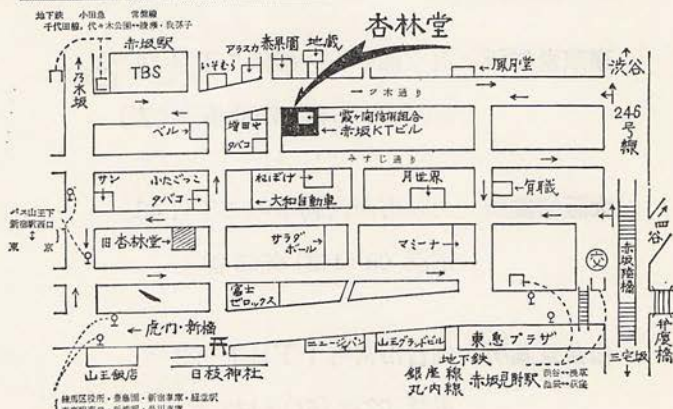
杏林堂 鍼專門治療

小川 晴 通

東京都港区赤坂 3-6-8

電話 (583) 1553 番

杏林堂診療室



診療時間の受付は前もって電話にてお約束いたします

建築材料販売工事

建設大臣登録（般）48 第 1834 号

中央建材工業株式会社

取締役 荻 野 武
東京営業所長

（市島町出身）

本 社 名古屋市千種区若水町 3—26
電話 052 (761) 6181 番（代表）

東京営業所 東京都中央区銀座 7 丁目 14—3
電話 03 (543) 8106 番（代表）

大阪営業所 大阪市西区靱本町 3 丁目 48
電話 06 (443) 6665 番

仙台営業所 仙台市宮町 1 丁目 1—22
電話 0222 (61) 8133 番

有 田 喜 一

東京都千代田区永田町二一〇一
T B R ビル 七 一 四 号 室
電 話 (五九三) 〇三一一二番
東京都世田谷区成城四ノ一ノ一五
電 話 (四八三) 一二〇九番
兵庫県氷上郡氷上町谷村
電 話 〇七九五八(二)〇〇〇八番

学校法人国学院大学理事
国学院高等学校々長
学校法人国学院大学幼児教育専門学校々長
財団法人日本私立大学連盟理事
財団法人私学研修福祉会理事

小 林 武 治

東京都武蔵野市境南町一三〇一二〇
電 話 〇四二二(三二)四七九六番

日本メキシコ協会会長
日本バレーボール協会会長
アジアバレーボール連盟名誉会長
国際バレーボール連盟副会長
日商岩井株式会社相談役

西 川 政 一

(住) 東京都杉並区善福寺二ノ三五ノ一六
電 話 (三九〇) 一 三 一 六 番
(寓) 静 岡 県 伊 豆 高 原
電 話 〇五五七―五三一―二五六〇番

ユニチカ園児スポーツウェア
総発売元

ノールスター株式会社

取締役社長

吉 住 重 造

本社 東京都千代田区神田須田町一ノ十一

電話 (二五三) 三四九三番 (代表)

ショールーム

東京都千代田区神田須田町一ノ十七

電話 (二五五) 〇四〇五番

藤原アジア研究所所長

藤 原 岩 市

東京都港区浜松町 1-5-7 山の手ビル 2F

電話 03 (437) 5693~4 番

調布市社会福祉協議会理事

調布市豊かな老後のための市民会議実行委員
老人問題研究所

木 村 つ た 江

東京都調布市東つつじヶ丘 2-39-5

電話 東京 (300) 1505番

株式会社 つるや洋装店

株式会社 東逗子駅前ビル

東海産商株式会社

代表取締役

小 谷 正 己

逗子市逗子 1-6-4

電話 0468. 71. 3075

71. 6449

婦人生活目黒学園

(目黒ターミナルビル内)

日本テレビ総合タレント学院

日本舞踊教授

西 崎

祥

東京都品川区小山四の九の三

電話 (七八一) 八六〇三

祝賀会御宴会などの芸能承ります

郷友会のお子さんたちもどうぞ!

電子器機部品専門商社

株式会社 三 誠

取締役社長 足 立 誠 一

東京都千代田区外神田 3—2—13

電 話 (255) 1 2 5 1 番 (代表)

綜 合 建 設 業

東京都知事登録第 3 号

春日建設株式会社

代表取締役 伴 仲 信 次
(春日部出身)

東京都千代田区飯田橋 2 丁目 9 番 3 号

電 話 東 京 (264) 4 0 1 1 番 (代表)

照明ガラス・建材ガラス
食卓用ガラス器

島田特殊硝子株式会社

取締役社長 栗原重次 (国領出身)

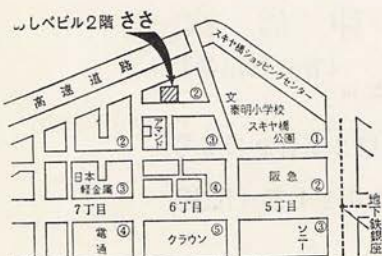
東京都港区新橋3丁目22番2号

電話 03 (433) 6151番 (大代表)

関西風山菜料理

さ さ

小山元和 (篠山出身)



東京都中央区銀座6-2-7

あしべビル2階

電話 (571) 4423番

株式会社 近藤写真製版所

取締役社長 近藤 勇 夫
(国領出身)

東京都新宿区下宮比町8番地
電 話 (260) 6 2 8 1 番 (代表)

< のびのびベビー 子供のファッション >



(株)



〒158 東京都世田谷区瀬田 1-22-19
TEL 03(700) 3 1 2 1 (代)



チャウチョ (株)

〒158 東京都世田谷区玉川台 1-13-12
TEL 03(708) 1 1 5 1 (代)

代表取締役 山本清士 (春日町小多利)

明治生命保険相互会社
本社東京直屬

足 立 正

東京都千代田区丸の内二丁目一番一号
電話(二八三)八一七二五番 直通

三菱商事株式会社

常務取締役
非鉄金屬本部長

足 立 徹

千代田区丸の内二一六—三

山 中 一 朗

227横浜市緑区美しが丘三十四六—一
電話(〇四五)九一一—四四九三番

植 木 紙 工 所

代 表 者 植 木 一 夫

東京都文京区白山三丁目一—十三
電話(八一—)八五七三番

萩 野 定 一 郎

事務所 東京都千代田区丸の内二—二

(丸ビル六階六二五区)

電話(二二—)七〇六一—二番

自 宅

鎌倉市御成町十七—十四
電話〇四六七—二一六七四二番

木徳証券株式会社

畑 秀 夫

本社 東京都中央区日本橋兜町二丁目八番地
電話東京(六六)一四八一(代表)一四八九番

東洋ゴム工業株式会社

三宅良夫

日本ビクター株式会社

専務取締役

西垣秀正

東京都中央区日本橋本町四丁目一番地ノ一
電話東京(〇三三)七八一一番(大代表)

木徳証券株式会社

投資顧問

能勢次郎

東京都中央区日本橋兜町一ノ八
電話東京(〇六六)一四八二(代表)
千葉市穴川二ノ三ノ六
自宅 電話(〇四七二)五二二(三七八二番)

曹禪寺住職

村上大憲

東京都大田区池上七丁目二番十号
電話(〇三)七五一二〇三五番

横山産業株式会社

取締役社長

横山幸三

東京都江戸川区中央二一三四一六
電話(六五五)三九九一(代表)

松山幸

(竹水)逸

171 東京都豊島区西池袋四一八一八
電話九七一—五七四三番

日本学士院会員
東京理科大学学長

理学博士

小谷正雄

東京都新宿区神楽坂一ノ三
電話東京(二六〇)四二七一
東京都大田区山王三ノ三六ノ四
電話東京(七七二)六六五二
自宅

景山正吾

156世田谷区桜一―二〇―七
電話 〇三一四二九―五八八〇

高見齒科

高見幸男

〒176 練馬区錦町二―八―三
電話 九〇〇―三八五六番

須原清

東京都中野区南台五の三〇の六
電話(三八二)一六二一―番

高見産婦人科

医学博士
高見嘉都司

東京都板橋区熊野町四〇番地
電話(九五六)〇六〇〇番

谷垣正雄

東京都杉並区高井戸西一―二四―一七
電話(二三三)六一六〇番

図書出版



株式
会社

二 玄 社

図書目録進呈

日本名跡叢刊・全100巻：平安～江戸期の名筆を精印
書跡名品叢刊・全200巻：中国歴代の名筆を原大に精印
東洋の名筆・既刊30点：日中書画の名作を原寸大に複製

名跡六体大字典・書源／和漢書道史／書の歴史・中国篇
ペン書法／小学生の書道講座／書道技法講座・既刊32冊
書道基礎講座／書道講座・全8巻／中国書論大系・全12巻
文房清玩・全5冊／日本金石図録／文士の筆跡・全5巻
高村光太郎書／秋草道人墨跡／副島種臣書／斎藤茂吉書
古名硯・全5冊／新羅高麗の仏像／法隆寺五重塔の塑像
中国の印章／日本の篆刻／日本の古印／呉昌碩／斎白石
池大雅／中国美術の研究／日本における中国文学／ほか

<どう考えるか> シンポジウムシリーズ 既刊 11 冊
ニヒリズム／知識と人間／科学というもの／悪・死・倫理
／近代の成立と中世／文化・経済・国家／失われた教育／
中国・今昔／自然と人間／母なるもの／ヒューマニズム

<月刊雑誌> CAR GRAPHIC: A4判 毎月1日発売

<年鑑別冊> ROAD TEST／外国乗用車／国産乗用車
世界の自動車・全60冊／世界名車全集・全8集／その他

〒101 東京都千代田区三崎町2-4 代表取締役社長

電話 (263)6051～4／(239)0141～5 渡辺隆男(氷上町)

☆フランス菓子☆スイス菓子☆ドイツ菓子☆

BASEL

●洋菓子・喫茶・食事

国立駅南口店 (銀座通り)

Tel 0425-75-9791

●洋菓子・コーヒー

八王子駅北口店

Tel 0426-44-3583

●洋菓子・喫茶

京王八王子駅前店

Tel 0426-42-8424

●洋菓子・工場

豊田駅前通り店

Tel 0425-81-0824

●ワイン・ビアレストラン

八王子三崎町店

Tel 0426-22-5528

●洋菓子・アイスクリーム工場

奥多摩バイパス店

Tel 0425-44-3911

●洋菓子

多摩川店 (読売ランド下)

Tel 044-944-2214

有限会社バーゼル洋菓子店 社長渡辺圭造

美味無比 木の实酒

栗の三年酒

くり

さん

ねん

しゆ

この木の实酒「小鼓くりの三年酒」は、純粹の丹波産栗の实、梅の实など山野の木の实を原料として秘醸したもので、常用すれば胃腸を整え健康と美容と活力を増進します。

ストリートでお飲みいただきますと、さわやかな梅の香りがひろがり、あと口にはコクのある栗の味が残ります。

お正月のお屠蘇には、縁起のよい「小鼓栗の三年酒」をお用い下さい
キット好評です。

◆丹波焼壺詰
◆徳用びん詰

	1、
35	50
00	00
00	00
ml	ml

小鼓の西山酒造場

氷上郡市島町中竹田
電話(〇七九五)⑥〇三三二一代

あと

がき

▲昨年四月会誌「山ざる」

発送するにつき、「何か私で手伝える事があれば申付け下さい。」と申しましたら、来てくれとの事で春日建設会社の会議室まで行きましたら、会誌を袋に入れ切手貼付する最後の仕事でございました。今迄私は迂闊にもこのように手のかゝるとは知りませんでした事を恥かしく思つたのです。出来上る迄編集に印刷等々に松山様はじめ足立様、渡辺様方が、お勤めお仕事の御多忙な中をさいてご努力頂きました事を改めて考えました。おそらく会員の皆様の大半の方々も案外無関心に会誌を手にしていらしたのではないかと存じます。

▲何と申しましても編集が一番むづかしい事で、その道に馴れておられる松山様がいらつしやればこそと存じます。予算の関係もありましようが、皆様御覧の通り、郷友会誌としては先づ一寸他にない表紙、編集、印刷だとお気付きの事と存じます。表書だけでも五百余、春秋の会の通知等々も同様殆ど足立正様が書かれます。大変な仕事だと痛感いたしました。

また伴仲様の春日建設会社の会議室を役員会、発行の仕事場等に快く拝借させて頂いて居ります。印刷された会誌もこの会社を持ち込まれますし、伴仲様のご協力はまた絶大なもので本当に有難いと思つて居ります。

▲誠に僭越な言葉かとも思いますが、会誌を手に入れましたら、出来上るまでの、またお手に入るまでの、前記の方々の絶大な御熱意の結果をよくお考え下さいまして、今後一層の御協力を御願い致したく一文いたしました。

(植村章子)

▲以上は植村章子さんから寄せられたものです。これを本誌に掲載する、しないで編集部では大変もめたのですが、楽屋を知って頂

ご投稿を歓迎します

随想・随感、身边雑記、ご意見やご提案、ニュース、お便り写真など、どんなものでも結構です。郷友会の交流を暖めるために、ぜひお気軽に皆様のご投稿を、お待ちしております。なお次号の発行は五三年四月初旬の予定。締切りは本年十二月二十日です。

(編集委員)

だくこともよからうということ、後記に入れました。

とも角、仕事の片手間でやることでずから会誌を手に入られてもいろいろと不満があらうかと思いますが、御勘弁願つて、今後ともご協力をお願いいたし度く存じます。尚、年会費の件もお忘れなくご送金下さるようお願い申し上げます。(竹水記)

山ざる 第8号

昭和五二年四月二〇日印刷

昭和五二年四月二五日発行

編集委員

松山幸逸

足立 正

荻野 武

常岡幹彦

渡辺隆男

発行所

関東氷上郷友会

東京都千代田区飯田橋二丁目九番三号

春日建設株式会社内 千102

TEL東京〇三(24)四〇一一番代

振替番号 東京 一一二二三三三〇番

制作 株式会社 二女社

画期的！経費処分の出来る 大型経営者保険誕生

わずかな掛金で **500万円** から **3億円** まで

日本で始めて **A I U** と **大同生命** が提携

- 非常に安い掛金で、しかも全額経費処分が出来ます。
- 一度の診査で、10年契約。65才まで加入出来ます。
- 掛捨てですから通貨不安、物価変動に強い新時代の保険です。
- 経営者に病气・災害・天災の事故のあった時、企業をがっちり守ります。
- その家族にも高額な退職慰労金が保償されます。
- 役員の任期も考えると、この保険は理想的な保険です。

一例 D 型

死亡	事故による時		5000万円	年 令	保険料 (D型)
	病気による時		2500万円		
休業補償	事 故	入院の時	$\frac{1}{\text{日につき}}$ 7500円	35才	月払 17,137円
		入院しない時	〃 2500円	40才	〃 19,637円
	病気入院 (20日以上)		〃 2500円	45才	〃 23,887円
	傷害医療費50万円迄 病気手術 5万円			50才	〃 30,387円
傷害の程度により病気廃疾の保険金					

ご説明に伺いました際は粗品を進呈させて頂きます。

A I U 総合代理店
大同生命代理店

永愛友商事(株)

〒107 東京都港区赤坂 3-1-2 A I U 赤坂ビル
TEL 03 (585) 0740代 代表者 前田和市

GRUE BONNE

高級婦人服製造卸

つるや産業株式会社

取締役社長 足立三治

東京店 品川区西五反田 7-22-17番地

東京卸売りセンター12階

電話 (03) 494局3285~7番

本社 川崎市中原区新丸子 701番地

電話 (044) 722局6371 (代表)

社長室直通 722局3212

創業 昭和 9 年

主なる取引先

(株)東急百貨店 (本店, 東横店, 日本橋店)

(株)伊勢丹(本店, 立川店, 八王子店, 吉祥寺店)

(株)大丸(東京店, 町田店, 大阪店, 神戸店, 京都店)

(株)西武百貨店(本店, 渋谷店) (株)松屋(本店, 横浜店)

(株)野沢屋 (株)小美屋 (株)丸井 (株)横浜岡田屋

(株)横浜高島屋 (株)川崎さいかや (株)阪急百貨店